

真宗

【巻頭言】—年頭の挨拶—

「身心柔軟—念仏者の生活—」

宗務総長 木越 渉

〈教団の動き〉

真宗本廟 報恩講 厳修

「令和6年能登半島地震復興支援事業」東本願寺
で能登を想ふ」開催

2026年1月号より『同朋新聞』の紙面及び
ウェブページをリニューアル

〈お知らせ〉

「寺院活性化支援室」支援事業のあらまし」
発行

大谷専修学院の2026年度学生募集中止について

〈特集〉

第7期「教区及び組の改編に関する中央委員会」
報告書

1月号

2026(令和8)年



真宗本廟 修正会

真宗

1月号

第1462号

宗派公式ウェブサイトで
宗派情報の発信を行っています。



各教区・開教区等の
行事一覧



巻頭言一年頭の挨拶	2
「身心柔軟—念仏者の生活—」 宗務総長 木越 渉	
教団の動き	4
真宗本廟 報恩講 厳修	
「令和6年能登半島地震復興支援事業～東本願寺で能登を想ふ～」開催	
2026年1月号より『同朋新聞』の紙面及びウェブページをリニューアル	

お知らせ

『寺院活性化支援室～支援事業のあらまし～』発行	9
月刊聞法誌『ともしび』判型変更・価格改定について	10
第60回「京の冬の旅」大寝殿・宮御殿・鐘楼 特別公開	12
大谷専修学院の2026年度学生募集中止について	13
教行信証(坂東本) カラー影印本 申込受付中	14
(広告) 月刊『同朋』1月号—特集「南無阿弥陀仏」	15

特集

第7期「教区及び組の改編に関する中央委員会」報告書	16
---------------------------	----

各種連載

児童教化のページ(596)	26
今月のお寺(231)〈長浜別院大通寺〉「一人の住職から別院の輪番へ」	28

ご案内・要項

総合相談室	29
教区真宗学院生募集要項(大垣)	33
真宗本廟奉仕・縁・諸研修報告【上山報告】	34
学階請求論文提出要項	35
2025年度「真宗 女性僧侶の集い」開催要項	36
第63回 大谷スカウト名誉奉仕訓練開催要項	37
雪に楽しむ池の平with子ども報恩講・第37回スキー学校開催要項	38
第3回「真宗トーク」アプリで対話カフェ 参加者募集	40
若者教化立ち上げ応援プロジェクト募集要項	41
南米開教区 開教使募集要項	42
真宗本廟奉仕のご案内	43
現在受付中の募集・開催要項等	43
真宗教化センター しんらん交流館のご案内	44
大谷祖廟(親鸞聖人御廟所)のご案内	44
真宗本廟 参拝接待所のご案内	46
真宗本廟収骨・読経・帰敬式受付時間表(2月～3月)	48
宗派関連ウェブサイト等のご案内	50

公示・告示・任免等

公示・告示・任免等	51
-----------	----

新刊のご案内

原典に立ち返った学びを進めるための 聞法テキストシリーズ第四弾

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃記念

宗祖親鸞聖人著作集 四

聖教編纂室(編)／東本願寺出版(発行)

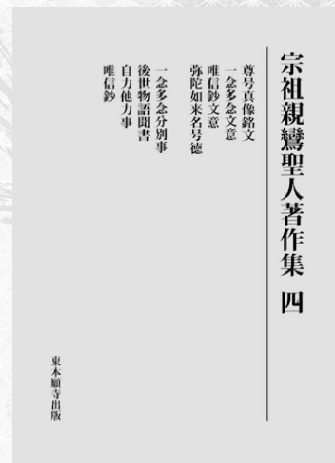
原典に立ち返った学びを進めるための聞法

テキストシリーズ第四弾。

宗祖親鸞聖人撰述の仮名による聖教(『尊号真像銘文』『一念多念文意』『唯信鈔文意』『弥陀如来名号徳』)、また宗祖書写の聖教(『一念多念分別事』『後世物語聞書』『自力他力事』『唯信鈔』)の翻刻を収載。

A5判・箱入り 416頁

定価：4,950円(税込)



東本願寺出版
HIGASHI-HONGAN-JI PUBLISHING

TEL:075-371-9189まで

詳しい書籍情報・試し読みは
東本願寺出版

当派の寺院・教会からの
ご注文は2割引となります。

法蔵館文庫
伊藤唯真著
来世への願いと信仰の展開
日本人の阿弥陀信仰
一、五四〇円

新装版 教行信証 下
シリーズ仏典をひらく
桐溪順忍著 真宗の根本聖典である『教行信証』を上・中・下三巻で解説。別巻では教義上の諸問題を解説する。下巻では、真仏土巻・化身土巻を解説。二、五三〇円

日本浄土思想の歴史
円仁・源信・法然・親鸞
四夷法願著 日本文化に多大な影響を与えた浄土思想その歴史と、特に重要な四人の祖師を通して、日本浄土思想の展開と歴史を学ぶための入門書。一、二〇〇円

その悩み、哲学者にお坊さんはこう答える
小川仁志・大來尚順著 哲学者と僧侶という二箇面のプロの二人が、それぞれの立場から人生・日常の悩みにたいする解決へのヒントを伝授。一、六五〇円

仏教伝来
朝鮮仏教史への入門
福土藤裕著 インドでの仏教誕生から中国・朝鮮半島への仏教伝播の歴史を分かりやすく解説した様々な時代や地域にわたる東アジア仏教史の入門書。一、四三〇円

近刊
北野大雲著 念仏がわからない禅は本物ではない。西田幾多郎の愛弟子にして長閑禪堂二世・森本念峰居士の著や、曾我量深など真宗人と交流し、浄土教へと傾いた禅の核心に迫る。予価一、六四〇円

禅と念仏
昭和の名僧 森本念念の禅

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458



https://pub.hozokan.co.jp 新刊メール配信中!
表示価格税込 お買上16,500円(税込)以上送料無料

— 年頭の挨拶 —

身心柔軟 — 念仏者の生活 —

宗務総長 木越 渉



本年もまた、如来の光に照らされつつ新たな一年が始まりました。

一昨年の元日に発災した令和六年能登半島地震を経験し、新年を祝う気持ちだけでは決して済まされない、火宅無常の世に生かされる人間存在の深い悲しみに思いを馳せつつ、被災地で生活する御同行の皆さまを憶念する年頭です。

ここにあらためて、今なお苦難の生活を送られている方々に心よりお見舞い申し上げます。また、復興に向けて被災者の方々と歩みを共にされておられる皆さまに、衷心より感謝申し上げます。

さて、一昨年の元日を調査期日として実施した第八回「教勢調査」では、門徒の減少、伝統的に篤信地帯といわれる北陸などで盛んな講の激減をはじめとした教化組織の衰退・解体が指摘されました。また、正信偈のおつとめができる門徒の減少に象徴される、浄土真宗の伝統・文化の全国的な変化が明らかになりました。殊に能登は深い信仰生活に裏打ちさ

れた、お念仏の声が染み込んだ土徳の地であります。能登の復興とは、信仰生活の復興でもあります。引き続き能登に心を寄せて参りましょう。

そして本年は「教勢調査」の分析結果を基に、あらためて「二人の念仏者の誕生」を期し、様々な宗派施策の再点検・再構築を行い、次世代に確かにお念仏の教えを受け渡すことができるよう、行財政改革をはじめとした取り組みをさらに推し進めていく重要な年です。

人間の手による改革は、様々な障壁に直面し、時に対立を生み出すこともあります。しかし、我々が歩む道は、お念仏を賜う道であります。人間が握りしめる正義の危うさを仏智によって知らされながら、一步一步対話を重ねて参りたいと思います。

今、宗門が直面する課題は、確かに難題ではありますが、如来の光に照らされ、教えられてみれば、宗門にご縁を賜っ

た私一人の問題であります。それぞれの場において、力を尽くして参りましょう。

説ことい我、仏を得んに、十方無量不可思議の諸仏世界の衆生の類、我が光明を蒙りて其の身に触ふれん者、身心柔軟にして、人天に超過せん。若し爾しからずは、正覚を取らじ。

〔仏説無量寿経〕、『真宗聖典第二版』(二十二頁)



令和6年能登半島地震 奥能登豪雨物故者追弔法会 (2025年6月21日)

この願文にあるように、お念仏があるということは、柔らかなる心を如来から賜うということでもあります。

道徳や知識で、人間の身心を本当の意味で柔軟にすることはできません。如来の光のみが、凡夫である私の身心を柔軟にすることができのです。それは、まさに念仏によって開かれる宗教生活です。

設ことい我、仏を得んに、十方無量不可思議の諸仏世界の衆生の類、我が名字を聞きて、菩薩の無生法忍むしょうぼうじんの諸の深総持を得ずは、正覚を取らじ。

(同二十二・二十三頁)

本年没後五十年を迎える金子大榮氏は、大経の第三十三願「触光柔軟の願」と第三十四願「聞名得忍の願」を念仏者の生活の基本になる願文であると読み解いてくださっています。先達の教えに導かれながら、我々が握りしめた物差しではなく、日々如来回向の念仏を賜り、その握りしめた握りこぶしを開きつつ、共に念仏者の大道を歩ませていただきましよう。

南無阿弥陀仏

教団の動き

「令和6年能登半島地震復興支援事業」東本願寺で能登を想ふ」開催

二〇二五年の真宗本願報恩講期間中、「令和6年能登半島地震復興支援事業」東本願寺で能登を想ふ」として各種企画が行われました。

期間中、境内白洲には「報恩講 能登震災ブース―災害につよい教団を目指して―」を設置。震災の被害や現在の状況、宗派のボランティア活動を伝えるパネル展示のほか、防災意識の向上を願い、災害用非常食や避難所で使われる段ボールベッド等の展示が行われました。またブース他境内各所で救済金が勧募されました。

ドキュメンタリー映画「風が灯るころ」奥能登・珠洲の記憶」上映会・シンポジウム

十一月二十二日には、真宗本願視聴覚ホールにおいて、ドキュメンタリー映画「風が灯るころ」奥能登・珠洲の記憶」上映会と、能登の現状と今後を語り合うシンポジウムが開催されました(企画協力：関西珠洲会、後援：関西石川県人会連合会・京都石川県人会)。

映画は、二〇二三年五月五日に発生した地震の後、珠洲市の各町内で行われる「キリコ祭り」の復興の様子を追いかけたドキュメン

再建された際に、日本画家の竹内栖鳳が天井画として描く予定であったものの未完に終わった「飛天舞楽図」の下絵を、デジタル合成した天井に投影。ライトに照らされ通常とは異なる楼上の雰囲気の中で、参拝者は興味深く天井を見上げました。

境内白洲においては、真宗大谷派教誨師・篤志面接委員会の取り組みを紹介するパネル展示及び刑務所作業製品の展示即売会や、宗派関係学校の光華女子学園、大谷中学・高等学校「京都」による展示ブースも設置されました。

しんらん交流館では、差別や戦争等の苦しみの中で、解放を願う人びとの絵画や版画等をパネルや動画で展示する「A I A U ひろば」が行われました。

二十三日・二十四日・二十八日には「子ども参拝案内所」を設け、子どもたちに向けた両堂の参拝案内、参拝記念品の配布や紙芝居の上演等を実施。二十二日から二十五日には

る歩みとその葛藤が描かれた作品です。

上映会後のシンポジウムでは、有馬尚史氏(映画監督、瓶子明人氏と娘の莉緒氏(映画出演者)、木越祐馨氏(能登教区光琳寺・加能地域史研究会代表委員)が登壇。仮設商店街で理髪店を営む瓶子明人氏は、地元珠洲市の「正院町未来会議」の共同代表を務めており「人もいなくなったり、何もない状態だが、いい町をつくっていきたい。復興のために祭りを絶対に無くしてはいけない」と語り、現在金沢で大学に通う莉緒氏からも「自分も友だちも能登が大好き」とふるさとへの思いが語られました。こうした祭りに代表される文化の復興を通して、真宗文化や地域コミュニティの今後について考える機縁とすることが願われたシンポジウムでは、最後に木越氏から、地域の復興と共に、一人ひとりが自分



能登の現状と今後を語り合うシンポジウム

タリ。能登の人々にとって代表的な生活文化の一つである祭りの復興と、その後再び見舞われた令和六年の震災後の困難な状況の中で、それでも次世代に繋げていくこととす

能登半島地震復興応援ひろば

十一月二十二日から二十四日にかけては「お東さん広場」において、前年に引き続き「東本願寺 能登半島地震復興応援ひろば」が開かれました。

「復興応援ひろば」は、「食べて・買って・楽しんで」能登を応援」をキャッチフレーズに、能登産の海産物やお米などの食材を用いた飲食ブースや、お茶、お菓子、工芸品等の販売ブースが設けられました。



能登半島地震復興応援ひろば

東本願寺キャラクター大型バルーンも設置され、子どもたちが元気に遊ぶ様子が見られました。

しんらん交流館・御影堂北側高廊下・京都駅前公益地下ストリートギャラリーでは大谷保育協会加盟園と京都市内各園の園児の作品を展示する「報恩講園児絵画展」を開催。東本願寺出版では、報恩講期間にあわせ「秋のブックフェア」を開催し、オンラインチャリティブックフェアや購入者プレゼント企画等を実施しました。また青少年センターでは、子どもやひとり親家庭への支援のため、お菓子やお米、日用品などの寄付を募る「おてらおやつクラブin東本願寺」を開設。期間中多くの寄付が寄せられました。

渉成園では十一月十五日から三十日まで、夜間特別拝観「渉成園 秋灯り」を実施。庭園のライトアップとともに飲食ブースの出店もあり、報恩講への参拝の後、庭園へ足を運ぶ姿が見られました。



未完の天井画が映し出された御影堂門楼上



見聞「教行信証」坂東本



御正忌報恩講コンサート【27日】



お斎(大寝殿)



秋の渉成園

教団の動き

関係学校が真宗本廟参拝・研修を行う

【10月】

十月に宗派学校連合会加盟校による真宗本廟参拝・研修が行われました。

実施校は左記のとおりです。

〔参拝〕

◇大谷中学・高等学校「京都」及び迎日高等学校（姉妹校） 五十名／十月二十九日

◇名古屋大谷高等学校 保護者会 二十五名／十月三十一日

◇大谷中学・高等学校「京都」「仏教に学ぶ」 三十九名／十月三十一日

〔研修〕

◇名古屋大谷高等学校 一年生 五十五名／十月十四日～十七日



小松大谷高等学校（10月20日～23日）

◇小松大谷高等学校 一年生 三十二名／十月二十日～二十三日

◇稚内大谷高等学校 二年生 五十五名／十月二十七日～二十九日

第30回「校長協議会」開催

【10/4】

宗派学校連合会では、十月四日に、第三十回「校長協議会」を開催しました。宗務所を会場とし、総勢十七名が参加しました。

今年度は、動行・感話の後、同協議会で継続して学習を行ってきた「歎異抄」について、乾文雄氏（学校連合会副会長）より講義が行われました。講義では乾氏自身の経験を交えながら、「歎異抄」に学ぶ、その学びの姿勢を参加者と共に丁寧になぞねていきました。



校長協議会での感話

また、午後からは大谷中学校・高等学校創立一五〇周年記念式典に参列し、同校の生徒・教職員、参列者等、総勢二五〇〇名と共に二五〇周年の節目を祝いました。

真宗大谷派学校連合会

2025年度「理事会・総会」「学長校長研究協議会」開催

【10/3】

宗派学校連合会では、十月三日、二〇二五年度「理事会・総会」「学長校長研究協議会」を開催しました。宗務所を会場とし、総勢二十九名が参加しました。

「理事会・総会」では、前年度の決算・事業報告、今年度の予算・事業計画等の審議が行われ、すべての案件について全会一致で承認されました。

引き続き、「学長校長研究協議会」が開催されました。今年度の研究協議会は、各加盟校における地域連携事業等の社会発信の取り組みの実践例を共有する場となりました。乾文



「理事会・総会」で審議が行われた

雄氏（学校連合会副会長）の進行のもと、配布資料に基づき、各校の取り組みを共有し、意見交換を行いました。参加者からは「専門性を生かした企業協力や行政との連携は、学生自身の実践の場となることも狙いの一つである。今後も学生のサークル活動等を巻き込みながらさらに発展していきたい」との声がありました。

体がこれまで蓄積してきた青少年教化や教育・教育の実践的な取り組みを「てらこや大谷」という新たな内容で掲載します。

本紙面のリニューアルに伴い、現在、東本願寺公式ウェブサイトに公開している「同朋新聞」ウェブページの見直しを行い、スマートフォンやタブレットでも読みやすくなるよう一新しました。

一人でも多くの方々に「同朋新聞」が届くことを願い、今後、関係部門で連携しながら「同朋新聞」ウェブページの閲覧者数の増加

を含め、紙面の配布拡大の方途についての検討が進められます。



ウェブページ掲載イメージ



お知らせ

月刊聞法誌『ともしび』判型変更・価格改定について

月刊聞法誌『ともしび』は、1952(昭和27)年7月に創刊され、約74年の歴史を重ねてきました。このたび、より読みやすい誌面となるよう2026年1月号より判型をB5判からA4判に変更いたします。

これからも、仏教の教えにふれるひとときを、皆さまにお届けしてまいります。

また、2026年1月号以降の新規お申し込み分より価格改定いたします。何卒ご了承くださいませようお願いいたします。〈教学研究所〉

A4判・8頁 ●1部 165円(税込・送料別)
●年間購読 1,980円(税込・送料込)

※2026年1月号は池田勇諦氏による講演「『真実証』の現実義」を掲載(2024年11月28日「親鸞聖人讃仰講演会」講演抄録)



書籍への文字入れ印刷 受付中!



法要や行事の記念品に、ぜひご活用ください! 東本願寺出版発行書籍の表や裏のご指定のところに、文字を印字することができます。

詳しくは東本願寺HP「各種記念品の取り扱い」からご覧ください↓

〈お問い合わせ〉東本願寺出版
[books@higashihonganji.or.jp]



参議会議員(名古屋教区)

補欠選挙

浅田和雄(あさだかずお)氏当選



浅田和雄氏が当選しました。浅田氏は第十八組瑞忍寺門徒、一九四一年生。八十四歳。任期は二〇二七年四月末日まで。

名古屋教区では、中山克宏参議会議員の逝去に伴い、十一月六日に招集された教区門徒会臨時会において補欠選挙が行われ、

大谷専修学院の2026年度学生募集中止について

大谷専修学院では、職員間の不和に端を発する問題により、学院の運営体制を整えるため、2025年度の学生募集を中止いたしました。現在、宗派と一部職員との間で裁判が係属中であり、学院設置者である宗派当局としては、現段階において、職員間の十分な協力体制のもと、入学される学生に安心して就学いただける環境を提供することが困難であると判断し、引き続き、2026年度（2026年4月入学分）も学生募集を中止いたします。

大谷専修学院への入学および学院での教師資格取得をご検討いただいている皆様方には、大変ご迷惑をおかけいたしますこと、深くお詫び申し上げます。

なお、大谷専修学院の他に、教師の無試験検定資格を付与する学事施設は、以下のとおりです。ご検討くださいますようお願い申し上げます。

＜2026年度入学者募集予定のある無試験検定資格を付与する学事施設一覧＞

- ・大谷大学（文学部・社会学部・教育学部・国際学部）〔京都府京都市・修業年限4年〕
- ・大谷大学大学院〔京都府京都市・修業年限2年（修士課程）、修業年限3年（博士課程）〕
- ・大谷大学 科目等履修生 真宗大谷派教師資格取得コース〔京都府京都市・修業年限2年〕
※本コースの出願には、4年制大学（第2学年まで修了している場合は在学中でも出願可）、短期大学等を卒業、もしくは卒業見込みであること等の条件があります。詳細は宗派ウェブサイト記事から大谷大学ホームページへのリンクがありますのでご確認ください。
- ・同朋大学（文学部・社会福祉学部）〔愛知県名古屋市・修業年限4年〕
- ・同朋大学大学院〔愛知県名古屋市・修業年限2年（修士課程）、修業年限3年（博士課程）〕
- ・同朋大学 別科専修〔愛知県名古屋市・修業年限1年〕
- ・九州大谷短期大学（仏教学科）〔福岡県筑後市・修業年限2年〕
- ・金沢真宗学院〔石川県金沢市・修業年限3年〕
- ・大垣真宗学院（夏期集中）〔岐阜県大垣市・修業年限4年〕※詳細は本誌33頁
- ・大垣真宗学院（土曜コース）〔岐阜県大垣市・修業年限3年〕※詳細は本誌33頁
- ・岡崎教区真宗学院〔愛知県岡崎市・修業年限3年〕
- ・名古屋真宗学院〔愛知県名古屋市・修業年限3年〕

※各学事施設の就業年限及び学費等の目安は、宗派ウェブサイト掲載の記事（下記QRコード）からご覧ください。

※真宗学院は、一定の入学定員を満たさない場合開院しない学院もございますので、必ず当該学院へお問い合わせください。

※上記学事施設の他、毎年3月上旬、8月下旬には宗務所において教師試験検定が行われます。詳細は宗派ウェブサイト、「真宗」誌に掲載する要項をご確認ください。

宗派ウェブサイト記事はこちら

【お問い合わせ】教育部 TEL：075-371-9193



災害救援本部より

■「令和6年能登半島地震」ボランティア支援センターのご案内

能登教務所に設置している「ボランティア支援センター」では、宗派関係者のボランティア活動に対して、宿泊場所の提供・活動経費の助成等の支援を行っています。

被災地域では息の長い支援を必要としています。能登教区でのボランティア活動を希望される方は、ボランティア支援センターにお問い合わせください。

※宿泊・活動助成等の詳細はボランティア支援センターホームページをご覧ください。

〒926-0816 石川県七尾市藤橋町9-1【能登教務所内】
TEL：070-1860-6010（専用電話）FAX：0767-53-0057【能登教務所】
E-mail：nvsc@higashihonganji.or.jp



ボランティア
支援センター
ホームページ

■救援金のお願ひ

宗派では、このたびの「令和6年能登半島地震」に対する救援金の勧募を行っております。皆様からの温かいご支援をお願い申し上げます。



【救援金口座】 郵便振替口座番号 00920-3-203053

【加 入 者 名】 真宗大谷派 ※通信欄に「令和6年能登半島地震」とご記載ください。

【令和6年能登半島地震指定救援金総額】

248,636,328円（2025年12月1日現在）

※宗派救援金口座及び境内救援金箱に寄せられた救援金の総額

＜最新情報はこちら＞

宗派公式
ウェブサイト→



宗派災害情報
公式X→



【お知らせ】第60回「京の冬の旅」大寝殿・宮御殿・鐘楼 特別公開

毎年冬に開催される京都市・京都市観光協会主催のキャンペーン「京の冬の旅」において、「大寝殿」「宮御殿」を僧侶が案内します。また、修復後初めて鐘楼の見学も実施します。この機会にぜひご参拝ください。

◆「大寝殿」「宮御殿」「鐘楼」特別公開

期間 2026年1月9日(金)～3月18日(水) 毎週水曜～土曜

※1月15日・24日、2月5日・12日・21日・27日、
3月4日・6日・12日は休止

時間 各日9時～（1日1回・所要時間約80分～90分）

料金 2,700円

※事前予約制（予約は「京の冬の旅」特設サイトにて）

詳細・予約は「京の冬の旅」特設サイトをご覧ください→



宮御殿 冬の間



鐘楼

月刊 どうぼう

同朋

仏教がみちびく、あらたな人生

まずは、お寺で1冊ご購入ください！
◇ご門徒へのプレゼント、法要・行事の記念品としてもご利用ください。


「同朋」は生活の視点から、
浄土真宗に親しむための月刊誌です

1月号特集 南無阿弥陀仏

〈寄稿〉
諸仏称名の声／名和達宣（真宗大谷派教学研究所員）
南無・帰命・帰依／箕浦晁雄（大谷大学教授）
共悩共歩／工藤量導（大正大学専任講師）
蓮如上人の伝道―副作用とその対応／井上見淳（龍谷大学教授）
竜谷凌雲牧師のこと／戒能信生（日本基督教団千代田教会牧師）

〈インタビュー〉
自分の意思を超えてやってくる超越的なもの
／中島岳志（政治学者）

巻頭インタビュー 土井善晴（料理研究家）



新連載スタート!!

料理研究家
土井善晴僧侶
大島義男大谷大学名誉教授
ロバート F. ローズ他部
名倉 幹

後生の一大事を心にかけて
ニューヨークから開教便り

魅力ある連載

お問い合わせ

◆FAX・電話・ハガキ・メール、またはオンラインショップ
でお申し込みいただけます。
◆代金は、「同朋」と共に送付いたします振込用紙にて、
お支払いください。
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る
東本願寺出版「同朋」係
TEL: 075-371-9189 FAX: 075-371-9211
メール: books@higashihonganji.or.jp

対話 生きづらいこの世界でも

ジャーナリスト 竹田タニエル

ペコロスのほどけてしゃがんで

マンガ家 岡野雄一

ついに、月刊『同朋』が電子書籍になります！
Kindle (Amazon) や楽天koboなどで購入いた
だけますので、「紙」でも「電子」でも、『同朋』を
お楽しみください！ 詳細は「東本願寺出版」

●毎月1日発行 ●購読料 年間 4,400円（税込・送料込） 1冊 440円（税込・送料別）
●A4判 フルカラー60頁 2025年7月号から価格改定

教行信証（坂東本）カラー影印本 申込受付中

このたび、『坂東本 教行信証』カラー影印縮刷本（東本願寺出版）の発行に際して、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌の記念事業として2005年に製作された、高精細カラー印刷を用いた『教行信証（坂東本）』カラー影印本（原寸大）を、あらためてお求めになる声が寄せられました。

そこで、その声にお応えして本山で大切に保管しておりました最後の30部を頒布いたします。

これが最後の機会となりますので、ぜひともお申込みください。

残14部
(12月4日現在)



「顕浄土真實教行證文類（坂東本）」
カラー影印本 全六冊
美濃紙（機械漉き）
高精細オフセット印刷（八色刷）
三穴和綴・上製桐箱・解説書付

受付期間：2025年10月1日から2026年6月30日まで【申込先着順】

懇 志 金：580,000円以上

申込方法：①お名前、ご住所、お電話番号をFAXまたはメールにて送信ください。なお、
件名として「教行信証（坂東本）カラー影印本申込」と記載ください。

②財務部から振込先等ご案内をお送りいたします。

③振込確認後、送付いたします。

注意事項：領収書は発行いたしませんのでご了承ください。

金融機関発行の振込明細をもって領収にかえさせていただきます。

お届けまでに2ヵ月ほどお日にちをいただく場合がございますことご容赦ください。

【お問い合わせ】

〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る常葉町754 真宗大谷派宗務所 財務部
TEL: 075-371-9186 FAX: 075-371-9195 mail: zaimu@higashihonganji.or.jp

第7期「教区及び組の改編に関する中央委員会」報告書

—2025年10月7日提出—

第7期 教区及び組の改編に関する中央委員会

本誌12月号7頁に掲載のとおり、10月7日、教区及び組の改編に関する中央委員会（坂本敏朗委員長）から、「第7期教区及び組の改編に関する中央委員会報告書」が宗務総長に提出されました。

教区及び組の改編の取り組みを全宗門的に共有し、宗門人一人ひとりが宗門の将来像を積極的に語り合う場が開かれていくことを願い、報告書の全文を公開します。

第7期教区及び組の改編に関する中央委員会

委員長	坂本 敏朗（金沢教区）
副委員長	今川 雅照（福井教区）
委員	高野 教導（東北教区） 井上 博（新潟教区） 金巻 拾子（新潟教区） 完 恵（能登教区） 杉江 勝彦（岐阜高山教区） 田中 正章（京都教区） 服部 忍（九州教区）

1. はじめに

第7期教区及び組の改編に関する中央委員会（以下、「中央改編委員会」という。）では、「17教区改編試案」の具現化に向けて各新教区準備委員会への助言・指導等の取り組みに邁進した。

その結果、今期において、第2期改編教区として「三条教区・高田教区」が新潟教区、「富山教区・高岡教区」が富山教区、「小松教区・大聖寺教区」が小松大聖寺教区、「長浜教区・京都教区」が京都教区、「山陽教区・四国教区」が山陽四国教区という新たな5教区が発足した。

しかしながら、「能登教区・金沢教区」については、地方協議会での合意後、2025年7月の新教区発足を目指して新教区準備委員会における協議が進捗していたものの、2024年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」の甚大な被害により、発足日程を2028年へ延期することとなり、第7期任期中の「17教区改編」の実現には至らなかった。

宗務改革の推進にあたっては、教えを相続するための宗門の基盤が失われかねない現実を前にして、宗門を取り巻く環境分析を踏まえつつ、教区の教化、財政、並びに組織機構の見直しを行うことは大きな課題である。そして改編教区にあつては、この課題に持続的に取り組むことにより、宗門の危機的状況が共有され、試行錯誤を重ねながらも新たな教区の将来像を真摯に描き、次世代への教えの相続に正面から取り組まれてきたものと受け止めている。

引き続き、「次世代に手渡す宗門の将来像」の構築に向け、改編関係教区にとまらず、全ての教区において教区・組の在り方やその将来像を積極的に語り合う場が開かれていくことを願いつつ、ここに今期における宗務改革たる教区及び組の改編のあゆみと課題を取りまとめ、報告書とする。

目次

1. はじめに	17
2. 改編関係教区の進捗	17
(1) 新教区として発足した改編教区	
(2) 能登教区・金沢教区の改編協議の現況	
3. 第7期中央改編委員会の取り組みと課題の共有	20
(1) 新教区発足後の課題の分析について	
① 岐阜高山教区	
② 九州教区	
(2) 改編によって見えてきた課題	
① 教区や組における教区自治にかかる課題	
② 別院の課題について	
③ 行財政改革との連動について	
④ 都市開教の展望について	
(3) 第3期改編教区について	
(4) 各教区における組の改編について	
4. おわりに	25

2. 改編関係教区の進捗

(1) 新教区として発足した改編教区 〔新潟教区（三条・高田教区）〕

—2021年6月合意、2023年7月新教区発足—
2010年2月25日に第1回の地方協議会が開催されて以降、19回の地方協議会及び「組織」「教化」「財務」の各部会における緻密な検討と協議を重ねられ、2021年6月29日の地方協議会において合意書が取り交わされた。

その後、2021年8月20日に第1回新教区準備委員会が開催され、2023年3月までに計4回の委員会が開かれた。また、コロナウィルス感染症の蔓延状況下にあつて、両教務所を結んだオンライン会議の活用も行いながら、「組織」「教化」「財務」の小委員会、さらには各小委員会正副主査を構成員とする常任委員会を通じて、具体的かつ継続的な検討作業が進められてきた。

これらの協議を経て、2023年3月31日に開催された第5回新教区準備委員会において、「教区及び組の改編に関する条例」に定める新教区発足年度の教化研修計画や予算、規則並びに新教区発足後の教区会・教区門徒会までの役職者に関する事項等について、最終的な議決がなされた。

上記内容は、同年開催の第73回宗議会及び第71回参議会で議決され、2023年7月1日をもって、新潟教区が発足するに至った。

なお、旧三条教務所を教務所とし、旧高田教務所は、教務所事務全般を行う教務支所として「高田教務事務所」と称することとなったが、特筆すべき点としては、新教区準備委員会において教区独自の門徒戸数調査が実施された上で、その調査結果に基づき、新教区発足と同時に経常費御依頼及び教区費等の割当基準が統一されたことが挙げられる。

また、広域化した教区においては、教務所に常駐する教務所長だけ

では教区内三別院（三条別院・高田別院・新井別院）の輪番としての業務を十全に行えないことから、教務所と支所の業務の仕分けを検討する中で、旧高田教区内の高田別院及び新井別院において副輪番（教務所次長兼務）職を置くことの要請が当局になされ、それに応える職員配置となった。

さらには、新教区発足にあわせて「宗議会議員選挙条例」に定める投票区並びに郵便投票を行う区域の見直しも検討され、その協議結果を受け同条例の改正がなされている。

【富山教区（富山・高岡教区）】

12020年3月合意、2023年7月新教区発足―
2012年5月11日に第1回地方協議会が開催されて以降、14回の地方協議会及び「組織」、「教学教化」、「財務」の各部会において、鋭意検討と協議がなされた。そして2020年3月10日の地方協議会において合意書が取り交わされた。

その後、2023年3月までに計4回の新教区準備委員会が開催されたほか、「組織」、「教学教化」、「財務」の各小委員会に加え、富山別院・井波別院・城端別院を擁する地域特性を踏まえた教化事業の展開を視野に「別院の位置づけ等に関する委員会」及び「富山教区教学研鑽機関の設置に関する検討委員会」が設置された。

また、各小委員会の正副主査を構成員とする常任委員会も設けられ、具体的な検討作業が継続的に進められてきた。

これらの協議を経て、2023年3月8日に開催された第5回新教区準備委員会において、「教区及び組の改編に関する条例」に定める新教区発足年度の教化研修計画や予算、規則並びに新教区発足後の教区会・教区門徒会までの役職者に関する事項等について、最終的な議決がなされた。

上記内容は、同年開催の第73回宗議会及び第71回参議会で議決され、2023年7月1日をもって、富山教区が発足するに至った。

しかしながら、教区と別院が連携して展開する教化事業、教区の教

学・教化を牽引する教学研鑽機関の充実、さらには新たな宗派経常費御依頼割当方法の在り方については、新教区発足後の継続的な協議・検討に委ねることとなった。

なお、教務所（旧富山教務所）及び教務支所（旧高岡教務所）は、寺院・門徒に関する総合相談をはじめ、相続講事務や聴聞の場として活用がなされている。

【小松大聖寺教区（小松・大聖寺教区）】

12021年3月合意、2023年7月新教区発足―
2017年3月1日に第1回の地方協議会が開催されて以降、9回の地方協議会及び「組織」、「教化」、「財務」の各部会における検討と協議が行われ、2021年3月24日の地方協議会において合意書が取り交わされた。

その後、2021年6月1日に第1回新教区準備委員会が開催され、2022年12月までに計4回の委員会が開催されたほか、「組織」、「教化」、「財務」の各小委員会に加え、教区の中長期的展望を見据えた「将来構想小委員会」も設置され、各小委員会の正副主査を構成員とする常任委員会が統括的に議論を集約しながら、具体的な検討作業が継続的に進められてきた。

こうした協議を経て、2022年12月14日に開催された第5回新教区準備委員会において「教区及び組の改編に関する条例」に定める新教区発足年度の教化研修計画や予算、規則並びに新教区発足後の教区会・教区門徒会までの役職者に関する事項等について、最終的な議決がなされた。

上記内容は、翌2023年第73回宗議会及び第71回参議会において議決され、2023年7月1日をもって、新教区として小松大聖寺教区が発足するに至った。

なお、旧小松教務所を新教区の教務所とし、旧大聖寺教務所については、主に相続講事務を行う教務支所として位置づけられた。

特に、小松及び大聖寺の地において伝統され、大切に受け継がれて

きた「御講」の維持と発展・強化を願ひ、新教区の編成が進められてきており、新教区発足後も教化委員会、寺院・講話性化支援室、財務委員会、慶讃事業推進委員会において、時代の変化や新型コロナウイルス感染症の影響による世話方減少や御講衰退の問題に對して、あらためて御講の（伝統と法宝物の）維持と、相続講における教化と募財の活性化のため、現状分析と継続に向けての協議が始められている。

【京都教区（長浜・京都教区）】

12022年6月合意、2024年7月新教区発足―
2017年2月3日に第1回の地方協議会が開催されて以降、23回の地方協議会及び「教化に係る専門部会」の検討と協議を通じて、2022年6月27日の地方協議会において合意書が取り交わされた。

その後、2022年9月29日に第1回新教区準備委員会が開催され、2024年3月までに計6回の委員会が開催された。これに加えて、「教化組織」、「財務」の小委員会が設置されたほか、新たな京都教区においては、旧長浜教区の区域を「特区」として地域の教学・教化を担って行くことを目的とした「特区小委員会」も設けられた。あわせて、各小委員会正副主査を構成員とする常任委員会を通じて、具体的かつ建設的な検討作業が進められてきた。

こうした協議を経て、2024年3月29日に開催された第7回新教区準備委員会において、「教区及び組の改編に関する条例」に定める新教区発足年度の教化研修計画や予算、規則並びに新教区発足後の教区会・教区門徒会までの役職者に関する事項等について、最終的な議決がなされた。

上記内容は、同年開催の第75回宗議会及び第72回参議会において議決され、2024年7月1日をもって、新教区として新たな京都教区が発足した。

なお、旧京都教務所を教務所とし、旧長浜教務所については、相続講や諸願事の受付を行う教務支所とした。

また、旧京都教区での教化事業は、教区を8地区に分けて地区教化

を行っていたため、旧長浜教区を9つ目の地区と位置づけつつ、他の地区と区別して「長浜特区」とし、長浜・五村両別院を崇敬する地域の実情に即した教化の促進と安定的な運営を図るため、長浜別院内に長浜教化センターを設置して、別院職員と教務支所職員が共同し、教化事業に関する事務を執る体制が整えられた。

また、これまで長浜教務所長が兼任していた長浜・五村両別院の輪番については、教区の広域化と「長浜特区」における教化の充実を願ひ、崇敬区域内寺院の僧侶の中から専任輪番（二別院兼務）を配した。

【山陽四国教区（山陽・四国教区）】

12023年5月合意、2025年7月新教区発足―
2021年6月18日に第1回の地方協議会が開催されて以降、13回の地方協議会及び「教化専門部会」における検討・協議を経て、2023年5月10日の地方協議会において合意書が取り交わされた。

その後、2023年6月26日に第1回新教区準備委員会が開催され、2025年4月までに計2回の新教区準備委員会が開催された。あわせて「組織」、「教化」、「財務」の小委員会、さらには、各小委員会正副主査を構成員とする常任委員会を通じて、具体的かつ継続的な検討作業が進められてきた。

これらの協議を経て、2025年4月25日に開催された第3回新教区準備委員会において「教区及び組の改編に関する条例」に定められた新教区発足年度の教化研修計画や予算、規則並びに新教区発足後の教区会・教区門徒会までの役職者に関する事項等に関する最終的な議決がなされた。

上記内容は、同年開催の第77回宗議会及び第74回参議会において議決され、2025年7月1日をもって、新教区として山陽四国教区が発足するに至った。

なお、旧山陽教務所を教務所とし、旧四国教務所は諸願事等の受付を中心とした教務所事務全般を担う教務支所として位置づけられた。

また、これまで教務所長が兼任していた別院輪番について、改編に

よって広域化する中では、輪番としての職責を果たすことが困難であること等を勘案し、広島別院並びに土佐別院について崇敬区域内寺院の僧侶の中から専任輪番が配されることとなった。

(2) 能登教区・金沢教区の改編協議の現況

2020年11月6日に第1回の地方協議会が開催されて以降、13回の地方協議会及び「教化」「組織」「財務」の各部会における検討・協議を経て、2023年6月19日の地方協議会において合意書が取り交わされた。

その後、2023年12月22日に第1回新教区準備委員会が開催され、「組織」「教化」「財務」の各小委員会に加え、新教区の将来展望を見通すための「将来構想小委員会」及び各小委員会正副主査を構成員とする常任委員会が設置され、2025年7月1日の新教区発足を目指した具体的な検討作業に着手した。

しかしながら、2024年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」により、教区改編に関する協議は、一時中断を余儀なくされる状況となった。そのような中にあっても、同年5月8日には第2回新教区準備委員会が開催され、震災の影響が特に顕著である能登教区の現況を見極める必要があることを確認しつつ、教区改編の意義を確認した。

その一方で当初予定していた改編期日での実施が現実的か否か、あるいは時期を改めて設定すべきかといった議論がなされ、被害の甚大な能登教区への支援や復興という質を持った教区改編の在り方が模索された。

こうした協議の結果、2025年1月14日に開催された第3回新教区準備委員会において、特に能登教区の方々への心情面の配慮をするためには十分な年月が必要である、という意見が多く賛同を得、改編期日を2028年7月1日へと3ヵ年延期する方針が確認され、同年2月には、両教区の臨時教区会・教区門徒会を経て、改編期日の延期の申し入れが中央改編委員会に提出された。

① 岐阜高山教区〈2024年3月懇談会開催〉

1 総合企画室の設置の現状と課題

総合企画室は、両地区教化センターの体制を含めた将来的な方向性を検討するために設置された。しかし課題が多岐にわたり逆に煩雑となった。また、寺院活性化支援室との関係性も含め検討が必要である。本来は教区の将来像を示す役割が期待されていたが、財務や組織課題については既存の機関が担当の方が妥当と認識されつつある。また、当初3年で御依頼期間当基華の統一化を目指したが、その実現には至っていない。

2 新教区の現状と見通し

改編によってひとつの教区となりながらも地区(旧教区)単位での事業進捗が継続しているのは、地域特性を活かすためであり、教区内では概ね受容されている。一方で、新教区の発足によって、他地区の行事等に学びたいという声が生まれており、慶讃お待ち受けの取り組みなどを通じて両旧教区の交流が進み、地域の良さを活かした共同活動も芽生えている。引き続き両地区の交流を推進し、新教区としての調整すべきところ、統一化すべきところは何かを時間をかけて積み上げていくこととなる。

なお、改編後3年を目途に教区費統一を図ろうとしていたが、現状の進捗では困難である。ただし、このことに伴って財務委員会が複数回開催されるようになったことは教区内の意識改革の表れと理解されていることであり、また、経常費の割当の在り方についても本質的な議論が始まりつつある。今後も教区内での理解を深めて統一化に向け議論している。

3 教区改編特別給付金の使途及び効果について

総合企画室会議・資料費や高山教務支所修繕費、Web会議設備の整備等に充当された。

これにより広域となった教区にあって、その中間地点であるエリアをサテライト会場と位置づける教化事業も設けられ、そのエリアでの参加も可能となった。ただし、その際の参加費徴収については、

中央改編委員会としては、一般の両教区の判断を重く受け止め、延期はやむを得ないものと認識するに至ったが、今後に向けて首都圏教化推進本部等が取り組む仏事代行や仏事サポートの制度を参考にするなど、新教区発足に先立って両教区が協働して進めるべき内容を明確化し、ロードマップを作成の上で、段階的に取り組みを進めていくよう要請した。

併せて、新教区準備委員会に対しては、一年でも早い改編の実現を目指し、常にスケジュールの見直しを念頭に置いた取り組みを継続するように申し入れを行った。

3. 第7期中央改編委員会の取り組みと課題の共有

(1) 新教区発足後の課題の分析について

第6期報告書に示されているとおり、新教区の発足が帰着点ではなく、中長期的な視野に立ち、改編後も不断に教区の教化や組織運営に係る点検と確認を行いながら、あるべき教区像を模索し続ける体制の必要性が見いだされている。

とりわけ岐阜高山教区、九州教区については2020年7月に新教区が発足して一定期間を経る中で、教区及び組の運営に関わる教化、財務、組織機構等の面で想定し得なかった課題が生じ、当初のイメージどおりの新教区像に至らない状況が報告されてきた。

このことを踏まえ、中央改編委員会としては、改編後の教区へのサポートをいかに捉えていくべきかを検討し、2023年第73回宗議会及び第71回参議会における議を経て、「教区及び組の改編に関する条例」に、中央改編委員会の業務として「教区及び組の改編後の課題及び支援の調査、研究に関する事項」を加えることとなった。

この業務が追加されたことにより、中央改編委員会では、改編から3年を目途とする教区に委員が出向し、教区役職者等との懇談を通じて意見交換を行うこととした。

これまでの両地区の方針が踏襲されたことによって、同じ研修を受講した方の中で有償・無償に別れるなど課題も表出している。また郡上教会の整備も行われたが、コロナウィルスの影響で十分な活用とまでには至っていない。

なお、人的交流の基盤の確立に向けた交流事業にも活用されており、報恩講参りあい等、地区別院(岐阜別院、高山別院)の団体参拝を促進する共同教化事業を実施できたことも効果のひとつである。さらには研修カリキュラムや御依頼完納記念品の統一も進捗した。

今後必要なサポートについて

継続的に他教区の事例を共有いただきたい。

その他

今回の改編は「玉虫色」の性格を持ち、優先順位を付けつつ旧教区における運営体制を部分的に残しながら進めざるを得なかった。改編後3年で成果を求めることは困難であり、今後の改編教区も同様の柔軟性が必要と考えられる。岐阜高山教区をはじめとした改編の先行教区の課題や現状を全国的に共有化しつつ、他教区の取り組みを参考にした教区運営が重要ではないだろうか。

その後、具体的に進捗している事柄について

2028年に教区慶讃法要を厳修する予定であるが、法要当日の一過的なものとして厳修するのではなく、岐阜・高山地区の交流を深め合いながら、両地区の枠を超えた慶讃事業を計画し、法要後の教区教化を見据えた取り組みとすることが確認された。この教区慶讃事業に向けた取り組みこそが、新教区像を創り上げていくきっかけとなることが願われている。

② 九州教区〈2024年2月懇談会開催〉

1 企画振興室の設置の現状と課題

企画振興室については、その役割や位置づけが不明確であり、参事会や所長の諮問機関との関係も曖昧となってしまうため、十分な機能を果たすことが難しかった。こうした状況を踏まえ、教務

所長の諮問機関である「改編移行期間および期間終了後の諸課題に関する委員会」において教務所や教化相談員の在り方が協議され、2022年度に答申が出されたことを受け、その後は企画振興室の業務に「改編後の諸課題」を加え、諮問機関は廃止された。

2 組の改編の現状について
広域化によって人の顔が見えにくくなり、教区・組・本山との距離感が広がったという不満もある一方で、多様な関わりが生まれ、主体的に教区や組を考える契機ともなった。こうした課題に対応するため、2023年度には「組教化事業推進特別助成金」が設けられ、組の主体性を育む取り組みが進められている。

3 「東本願寺仏事サポートセンター福岡」の今後の見通しについて
「東本願寺仏事サポートセンター福岡」は、仏事相談窓口の設置、仏事代行、都市圏講座の運営、開教希望者支援など、多様な事業を展開している。また、教区の広報を荷うと共に教区出版物の発行や残蠟再利用、院号法名表装の仲介といったサービスを行い教区費の減額を可能とする一定の収入も得ている。また、完納寺院に対する記念品について、カタログより選択できる「完納寺院記念品カタログチラシ」の作成も行われている。これらのことは、大規模教区となったことにより実施できた事柄と言える。今後は仏間や会議室を備えた新たな拠点づくりを目指している。仏事代行についても年間の葬儀・法事が安定的に行われており、将来的には自取自弁での運営が期待される。

※聞き取り後の展開
「仏事サポートセンター福岡」は開設以降、福岡市内の賃貸物件を事務所としてきたが、賃料の負担も大きく、また契約上、仏事を執行することができなかったことから、「仏事サポートセンター福岡」としての活動に相應しいと思われる土地を新たに購入し、仏事の執行が可能な仏間を備えた3階建の新施設が建設されるに至った。今後は、「仏事サポートセンター福岡」の展開する全ての事業によって得られた収益を、教区的一般(事業費)会計へと回

改編後3年が経過した段階では、肯定的・否定的両面の意見があるが、短期間での改編の意義の浸透は困難であり、特に伝達されてきた改編の意義と現状の乖離という課題が大きく10年・20年単位での時間が必要と思われる。一方で、宗門の体力があるうちに改編を進めるべきだという指摘もなされている。

(2) 改編によって見えてきた課題

① 教区や組における教区自治にかかる課題

いずれの改編教区も寺院数の増加と広域化に直面し、殊に新たな京都教区においては、新教区発足時には全国で最も多くの寺院数(1,068カ寺)を擁する広域教区となることから、教区制や組制等、現行制度上の課題を克服しなければ、今後の教区運営に重大な支障をきたすおそれがあるとの懸念が示された。

また、九州教区においては全組的な改編が進められ、結果、新教区発足後の教区会等の構成人数は減じられることとなったが、他教区も同じ様な組の改編の取り組みを推進していくことは困難であった。このため現行法規下では、新教区発足時に教区会議員並びに教区門徒会員の数が大幅に増加し、かつ実質的な議論の深まりを期すための各種会議の開催にあたっては、非常に大きな労力と経費の増大を招くという課題が生じた。

かかる状況を踏まえ、京都教区からは、同朋の公議・公論の原則を堅持しつつ、合理的な教区運営に資する体制(教区会議員定数の変更)を可能とする立法措置を求める要望が寄せられた。これを受け、当局においては、「教区及び組の改編に関する条例」第49条に基づき、新たな京都教区に限って、発足後の教区会での議決を経て、選出される教区会議員の数を変更することができるとの措置が講じられた。(「教区改編に伴う京都教区の選出教区会議員の定数に関する特別措置条例」)

このように、明確となった教区会議員の構成に関わる課題をはじめ、各教区発足後の実情を見定めつつ、教区制・組制をはじめとする関係諸法規についての調査・研究を進め、条例改正も視野に入れた関係部

付していくことを目指している。

開所式 2025年1月16日(木)
住所 〒810-0054 福岡県福岡市中央区今川1丁目9-17
教化相談員の効果について

4 教化相談員については、立場や任務が不明確であったことから、教区の方々との認識の違いが生じ、そのため教化相談員自身の精神的負担が大きく、十分に機能しなかった。任務の明確化、将来的な展望そして持続的に担保できる予算措置について、本山及び教区での十分な共通認識を持つことが必要であった。

5 教区改編特別給付金の使途及び効果について
給付金は、福岡支所の設置・運営、教区教化推進、教務所の改修等に充てられた。特に「仏事サポートセンター福岡」が開所し、都市圏拠点の整備に大きく貢献しているが、宗派としての都市圏教の大きな方針を持つべく、今後の展開に係る宗派としての方針検討が望まれる。

6 その他
各組や地域の声を幅広く聴取する場を設けることが求められる。効率化のみを目的とした改編では、改革の願いが伝わらないという懸念も示されており、殊に防守をはじめとした女性の声も丁寧に取り入れる改編としていけるよう、取り組みを推進していかなければならない。

また、女性門徒の会や坊守会の活動停滞、教務支所の人員減少による窓口対応業務に対する不満などがある一方で、主体性が育まれる側面も見られる。教区改編においては行政的側面と教化的側面を分けて考える必要があり、更なる事務の効率化とスケールメリットを活かした事業の進捗を図らなければならない。ただし、従来の集まる教化は広域化の中では困難なことが多く、組を基軸として教化の進展をどのように図るかが、肝要と思われる。なお、教務支所の窓口業務は無くなり、電話や郵送等による教務所での対応が増加している。

門の有機的な連携が求められるところである。また本件については、全国的な議論の展開と深まりが必要であり、全国教区会正副議長会、全国教区門徒会正副門徒会長会における課題の共有も必要なものと思量する。

② 別院の課題について

これまで地方協議会での合意書の合意項目や新教区準備委員会における新教区発足時の体制構築の過程において、教区に編入される別院の崇敬・護持についての検討を促してきた。

しかしながら、各教区における改編協議の中では、種々の検討が行われたものの、最終的にはいずれの教区においても、別院の崇敬・護持やその将来像に係る新たな方向性はなかなか見いだすことには至らなかった。

これら別院の抱える課題については、当該別院が編入されている教区や崇敬区域における議論のみでは、抜本的な改善策を講じることが困難であるとの切実な教区の声も聞かれ、教区改編を通じてむしろ将来的な別院運営に係る課題がより一層浮き彫りになった。

当局においては、2023年度には宗務審議会「別院の将来構想に関する委員会」を設置し、さらには2025年度からは、その議論の場を条例による委員会「別院の再編成に関する委員会」へと移行させ、別院の現況調査等を踏まえつつ、将来展望を見据えた上で、統廃合をも含む抜本的な改革の必要性が共有されようとしている。

現在、別院の再編成が宗務改革として位置づけられ、全国51別院それぞれその将来構想が、慎重な検討のもとで紡ぎだされようとしており、今後は、本山と編入されている教区と当該別院が往復的な協議の積み重ねを通じて、持続可能な方向性を見いだされることが強く期待されるところである。

③ 行財政改革との連動について

改編教区では、教務所での業務が集約化され合理化される一方で、業務集中による教務所員への負担増加についての懸念も提起されている。これらの課題は、教区及び組の改編と連動した行財政改革の取り

組みとしても進められるべき内容が多分に含まれている。

現在、当局において進められている行財政改革のひとつの項目として、宗務役員の働きやすき改革が指向されており、教区で宗務を担う教務所員の事務効率化が図られようとしている。例えば物流改革の一環として、門徒用授与物や蔵版の本山一括管理（オンラインショップの導入）、教区内の広報・周知・情報交換に際し従来の紙媒体からスマートフォンを活用したオンライン連絡ツールの導入、さらにはAI自動文字起こしソフトを用いた会議録作成等、事務の軽減に向けた取り組みが進められている。

また、新たな交付金交付基準の策定についても、改編による教区の広域化と門徒戸数調査のこれまでのあゆみを踏まえて、教区・組が一定の水準によって教化施策を実施できる体制の構築を目指そうとしているものであり、中央改編委員会としては、教区及び組の改編後の課題及び支援の調査と研究を進め、それらの内容を行財政改革の推進に活かせるよう取り組みなければならぬと考える。

④ 都市開教の展望について

人口流動による過疎・過密が進む社会的変化や宗教離れ・寺離れが叫ばれている中、特に都市部においては開教の視点に立った教化の展開が不可欠となってきたことが明らかとなった。実際に複数の教区において、離郷門徒対策を意識し都市教化が課題化され協議の組上に載せられてきている。この課題に対して、現時点では九州教区における福岡都市圏での都市開教の必要性に対応した新たな教務支所の設置（福岡教務支所）と仏事サポートセンター福岡の開設に至っている。今後は、行財政改革における取り組みと連動し、単に九州教区における事象や課題としてのみ捉えるのではなく、首都圏や全国の都市部における開教について、新たなご縁づくりや、宗派に何からのつながりを持つ方々との関係性を構築・深化させる取り組みが不可欠であるものと考ええる。

（3）第3期改編教区について

第5期及び第6期中央改編委員会の報告書においても付言されているとおり、全国17教区への改編後に想定される「第3期教区改編試案」については、これまでの試案に含まれていなかった福井、大垣、三重の各教区を中心に、今後の改編時期及び編成内容を見定めていく必要がある。

この検討にあつては、既に教区改編が完了した教区や、これまで改編対象としては組上に載せられてこなかった一定規模を有する教区も視野に入れ、教区改編の中長期的展望を見据えつつ、引き続き議論を深め、第3期改編試案の作成を行財政改革の進捗状況も見定めつつ進めていく必要がある。

そして、「17教区改編試案」の実現が見込まれる第8期以降の中央改編委員会においては、中央改編委員会の責務として、対象教区及び改編時期等に関する具体的な試案の作成と提示を行い、関係教区との協議を着実に進めていくことが肝要である。

（4）各教区における組の改編について

組の改編に関しては、第6期報告書でも記されているとおり、いずれの教区においても教区と組がそれぞれの機能を有機的に発揮し、共同教化の実をあげるためには、組の在り方について継続的な点検と検討が不可欠である。

今期中においては、九州教区における教区改編の取り組みでの継続した協議が重ねられていた三井西組、三井東組及び久留米組において、三井東組と久留米組の2カ組によって久留米三井組へと改編がなされた。また、山陽四国教区の発足に際しては、旧四国教区中のうち東予組、松山組及び宇和島組が伊予組に改編されたほか、今期中には、改編関係教区ではない岡崎教区においても、第3組と第30組が改編し第3組となった。

なお、東北教区においては、新教区発足後も継続して組の改編が課題化されている中で、教区改編委員会での議論を経て2024年度に

は「組の改編に関する指針について」を発出し、各組や地域（県）等における組の改編に関わる協議の必要性を共有していくための取り組みが進められてきた。

さらに、その他教区においても、組の改編に向けた取り組みの動向が見うけられるところであるが、こうした動きが一部の組に限定された事象に留まらぬよう、中央改編委員会としても、全教区に設置されている改編委員会を中心に、活発な議論が展開されることを強く期待し、各教区への働きかけを継続しなければならぬ。

4. おわりに

振り返れば、2020年の岐阜高山教区、九州教区が発足するまで、全国30教区体制は、約90年もの長きにわたり維持されてきた。そうした歴史の蓄積を変革するという道には、様々な困難が伴い、また、一から教区づくりを始めるといった覚悟が求められるものであったと想像する。そして、新たに発足した新教区におかれては、様々な違いを超え、新たな出会いを喜びとしながら、新教区としての第一歩を踏み出され、発足後も継続的に教区及び組の在り方について確認と点検を重ねておられる。

各教区の新教区準備委員会をはじめ、これまでの関係各位の不断なる努力に心から敬意を表したい。

現在、教区や組の広域化が進む中にあつては、その運営に関して様々な戸惑いや困難が生じている旨の意見も寄せられているが、一方で、小規模な組や兼業住職の多い組においては、教化事業の活性化が感じられるようになったとの声や、新たな人の交流が生まれたとの前向きな意見も聞かれている。

教区改編は、新教区の発足をもって終結するものではなく、むしろその後において、各教区の方々が環境の変化を真摯に受け止め、その中で自らの教区の将来像について語り合い、改編のもたらす意義やメリットを、自らの手で紡ぎだしていくことにこそ教区改編の本義がある。

なお、新たな中央改編委員会に加えられた業務により、改編後の教区の

課題等についてお聞かせいただいているが、浮き彫りになったこれからの教区や別院の運営に関する課題については、重層的で宗門全般に影響を及ぼすものである。条例上の役割に鑑みると、当委員会の議論のみでは十分な対応となり得ない懸念もある。

これは、教区及び組の改編によって、いよいよ露わになってきたものと言えるが、その課題克服のためには、宗務改革全般を見渡しながら、情報を整理・分析し、包括的に宗派の将来像を紡ぎだすための業務を推進していくことがますます重要と思われる。

当局におかれては、中長期的な視野をもって現状分析を行い、適確かつ強固な指導力を発揮して、これからの宗務改革の推進にあたられることを切に願うものである。

以上

【資料編】 ※宗派公式ウェブサイトに公開しています↓

1. 「地方協議会」「新教区準備委員会」の進捗状況

2. 教区及び組の改編による変化（2008年度・2025年度 宗門現勢の比較）



児童教化のページ

シリーズ 真宗大谷派における児童教化
—子どもたちとともに、今までもそしてこれからも—

ち か い

- 一、私たちは、仏の子どもになります。
- 一、私たちは、正しいおしえをききます。
- 一、私たちは、みんな仲よくいたします。

大谷派児童教化連盟

596

2025年8月1日から4日にかけて、「第35回同朋ジュニア大会」が開催されました。本年度のテーマは「正義×正義」。講師の梶原敬一氏から2日間(8月1日・3日)にわたり、このテーマについて様々なおはなしがありました。

今回から3回にわけて、8月3日のおはなし(要旨)を掲載します。

第35回同朋ジュニア大会 おはなし①

山陽四国教区第7組光明寺・梶原敬一
姫路第一病院小児科部長

一昨日、正しいとは誰かが正しいと思えることであり、自分たちだけで正しいと思うことではないと話しました。正しさは全ての人にとって正しくなければならぬ。それを正しいと言い切れるのは、自分が生きているということを本当に大切に思うからであり、それは自分自身を信じていることだと言いました。

昨日、正しいとは誰かが正しいと思えることであり、自分たちだけで正しいと思うことではないと話しました。正しさは全ての人にとって正しくなければならぬ。それを正しいと言い切れるのは、自分が生きているということを本当に大切に思うからであり、それは自分自身を信じていることだと言いました。

いで生きている人はいません。なぜなら、自分が生まれたことで、やがて自分が死んでいくことを知っているからです。自分がいつ死んでしまうかわからないということは、もう小学生ぐらいになると考えるかもしれません。僕自身は小学生ぐらいの頃に死ぬのがすごく怖かったです。毎日死ぬことを考えては、どうしたらいいのかと悩んでいました。やがて、それが解決したわけではありませんが、「いのち」とは何かということを考えるようになり、死を恐れることが無くなりました。

というのは単に南無阿弥陀仏と称えることだと思っているかもしれないが、私に。お前はちゃんと生きているのか」と問いを投げかけるのがお念仏です。

私たちは、ちゃんと自分の「いのち」を生きていないと不安になります。自分がどう生きて、人生をどうするかは自分自身で決めなければいけません。どんなにうまくいっても、自分で決めている人生を生きて後悔が残ります。失敗を後悔する必要はありません。でも、自分で決めないで生きていくと、自分の人生で生きたことにならないので、これが一番の後悔となります。

大人になった時に、子どもの頃から一生懸命打ち込んだことがあったとしても、自分で決めているなければ自分になったわけではありません。人がいいと思ったものに自分がなただけで、自分をどこかに忘れてしまおうということです。

その自分を忘れてしまった時、自分の代わりに何かを探します。それは、自分というものを一緒に生きてくれるような仲間です。仲間を求めるのは自分のいない人です。小さい

時の友達とは違います。仲間というのは、自分を一人で生きられない人が集まっているだけです。一人になった人たちが会おう時は、それぞれが自分というものを生きていますから、仲間になるわけではありません。仲間ではなくても、一緒に生きられるということが大事です。それは、一人一人が自分をちゃんと生きていることを認め合って、その人を尊重することができるといことです。

私の人生は私だけのものです。でも、私の前にいるもう一人の人にとっては、その人の人生はその人だけのものです。どちらも尊い。それは、自分のことが大切だと思うのと同じように、他の人が生きていることも大切だからです。だからといって、その人のために自分が何かをするというのではなく、自分は自分のために生きているのです。自分のために生きるという時、その自分が最初に言ったように、何か生まれてから死ぬまでずっと続いている自分でなければならぬ。

小さい時の自分と今の自分を区別して、今の自分の方が大事だということはありません。生まれた時から今も、そしてこれからもずっと自

分は続いています。そのずっと続いていく自分、苦しいことや楽しいことや悲しいことがいっぱいあったかもしれないけど、それが全部一つになっている自分があります。それはなんと自分というのかわかりませんが、そこに私は生きているということをし、しっかりと感じさせるものがあります。

だって、生きているのは生まれてきたからです。生まれてきて、毎日毎日いろんなことをしながら、一日一日生きているから生きているのです。その一日一日生きているということをし、しっかりと知ることです。そうやって年を取っていくと、自分はこのように生きてきたのだとこのことがわかります。それが自分が生きた跡になって残ります。自分以外のどこに残るわけじゃないですよ。自分の中に自分の生きた跡は残ります。

私たちは死んだ後は無くなると思うかもしれませんが、私の中にずっと育ててきた種は残ります。例えば、お花や野菜の種を植えたら芽が出て、やがて花が咲きます。花が咲いて実ができて、今度は実が種になり、その種が次の花になっていき

ます。人間も一緒です。私たちには種が残ります。その種が次の「いのち」になります。その種がずっと残っていくということが、私の中に生きたことが跡になって残ることです。

私たちは、ちゃんと自分の「いのち」を生きていないと不安になります。自分がどう生きて、人生をどうするかは自分自身で決めなければいけません。どんなにうまくいっても、自分で決めている人生を生きて後悔が残ります。失敗を後悔する必要はありません。でも、自分で決めないで生きていくと、自分の人生で生きたことにならないので、これが一番の後悔となります。

人間がどんどん増え、世界中が戦争や気候変動で、動物たちも人間も生きられるかわからないようなことになっているけれど、それでも私たちが育てた種がどこかに蒔かれたら、それが生きている力となって次の「いのち」になっています。それは人間の形を取るかどうかかわかりませんが、「いのち」そのものの力になっているのです。そういう種を育てていたら、私は生きたと、確かにここに大切なものが育ったのだと、自分が生きていることが本当の意味で確かなものになるでしょう。その確かなものが必要なのです。

総合相談室

ご利用になる皆様の個人情報に最大限の注意を払い運営しておりますので、安心してお気軽にご相談ください。
なお、宗務所に面談にお越しになる際は事前にご予約をお願いします。

●組織部(教務)総合相談室 TEL: 075-371-9184 ●結婚に関する問い合わせは vivaha@higashihonganj.or.jp

結婚相手求む

●寺院に迎えたい (家族構成)

神奈川県	男性	44歳	両親
富山県	男性	44歳	
岐阜県	男性	40歳	両親・妹弟
岐阜県	男性	49歳	
岐阜県	男性	54歳	母・弟
岐阜県	男性	39歳	
愛知県	男性	55歳	
愛知県	男性	41歳	
愛知県	男性	49歳	
愛知県	男性	46歳	
愛知県	男性	39歳	
三重県	男性	45歳	両親
三重県	男性	53歳	両親
大阪府	男性	38歳	両親
大阪府	男性	43歳	

北海道	女性	37歳	
山形県	女性	34歳	両親
新潟県	女性	38歳	
富山県	女性	50歳	
石川県	女性	35歳	
福井県	女性	39歳	両親
岐阜県	女性	41歳	両親
愛知県	女性	30歳	
滋賀県	女性	28歳	母・妹
大阪府	女性	38歳	両親
大阪府	女性	39歳	

●寺院に入りたい

東京都	男性	50歳
-----	----	-----

入寺希望

秋田県	男性	58歳	有教師・東北教区希望
東京都	男性	56歳	有教師
東京都	男性	42歳	有教師
東京都在住	男性	43歳	有教師
東京都在住	男性	50歳	有教師・東京教区希望
埼玉県	男性	47歳	有教師
新潟県	男性	45歳	有教師・新潟県希望
石川県	男性	67歳	有教師・富山、能登、金沢教区希望
岐阜県	男性	75歳	有教師・岐阜県希望
愛知県	男性	70歳	有教師・愛知県、岐阜県、三重県希望
大阪府	男性	67歳	有教師・大阪府、奈良県希望
大阪府在住	男性	53歳	有教師・大阪教区希望
鹿児島県	男性	46歳	有教師

法務員・寺務員求む

北海道/山形県/東京都/埼玉県/埼玉県 證大寺/神奈川県/新潟県/新潟県 真宗寺/
新潟県 超願寺/岐阜県/愛知県/大阪府/長崎県 法務員募集 詳細は面談で

後継者求む

北海道	有教師	50歳まで
北海道	有教師	25歳まで
北海道	有教師	要運転免許・40代まで
北海道	有教師	性別・単身・家族連れ不問・69歳まで
秋田県	有教師	性別・単身・家族連れ不問・50代くらいまで
山形県	有教師	性別・単身・家族連れ不問・50代くらいまで
宮城県	有教師	単身・家族連れ不問
長野県	有教師	50代まで
長野県	有教師	
新潟県	有教師	
新潟県	有教師	家族連れ・40代まで
新潟県	有教師	65歳くらいまで・要運転免許
東京都	有教師	50代まで・要運転免許
富山県	有教師	家族連れ・50代くらいまで
富山県	有教師	家族連れ・40代くらいまで
富山県	有教師	70歳くらいまで・要運転免許
石川県	有教師	40代くらいまで
石川県	要運転免許	性別・単身・家族連れ不問・50代くらいまで
石川県	有教師	家族連れ・40代まで
石川県	有教師	家族連れ・50代まで
石川県	有教師	家族連れ
福井県	有教師	家族連れ・60代くらいまで
岐阜県	有教師	20~40代まで
岐阜県	有教師	家族連れ・50代まで
愛知県	有教師	家族連れ・40代くらいまで・要運転免許
愛知県	有教師	家族連れ
愛知県	有教師	家族連れ
愛知県	有教師	30代くらい
愛知県	有教師	家族連れ・40代くらいまで
愛知県	有教師	45歳まで
三重県	有教師	男性・40代まで
三重県	有教師	
滋賀県	有教師	
滋賀県	有教師	
滋賀県	有教師	50代くらいまで
滋賀県	有教師	家族連れ
滋賀県	有教師	
滋賀県	有教師	家族連れ
滋賀県	有教師	家族連れ・40代まで
滋賀県	有教師	要運転免許・65歳まで
福岡県	有教師	家族連れ
福岡県	有教師	家族連れ・60代くらいまで
大分県	有教師	30代くらいまで
長崎県	有教師	家族連れ
鹿児島県	有教師	独身・30代まで
鹿児島県	有教師	

法務員・手伝い希望

長野県	男性	有教師
三重県	男性	有教師 愛知県希望
滋賀県	男性	有教師 京都教区、関西地方希望
福岡県	男性	



↑「後継者相談」「入寺希望」について、宗派公式ウェブサイトでも情報登録並びに情報提供に関するお申し込みを受け付けています。



長浜別院本堂

滋賀県の北部、豊臣秀吉が築城した長浜城がある町に、長浜別院大通寺はある。
長浜別院がある京都教区長浜特区(旧長浜教区)では、昨年度に教区の改編が行われた。改編前は輪番を長浜教務所長が務めていたが、改編後は特区内の寺院の住職から選ばれ、曾我謙成輪番が就任することとなった。

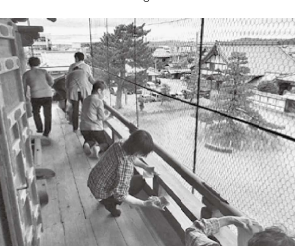
曾我輪番に当時について伺うと、「組長になったと思ったら、教区会議長に選出さ



参拝者の方と勤める晨朝

にされていることがある。長浜別院では、報恩講や夏中の法要の前に、直参門徒会や特区内の組などに担当いただいて、清掃奉仕が行われているが、曾我輪番も共に作業をされ

ずつ増えているそうである。また、報恩講の音楽法要でも、儀式中の三帰依文をバリー語にし、導師の独唱に続いて参拝者が復唱する同朋唱和の形にされている。



特区女性研修会での清掃奉仕

にいる。清掃奉仕について曾我輪番は、「特区内の寺院のご門徒にとつて、別院は近くて遠い存在なのだと知った。しかし、寺の役職にあたっては、

今月のお寺

231

長浜別院大通寺

(本願寺別院大通寺)

滋賀県長浜市元浜町三十一番九号

輪番 曾我謙成

大谷大学博物館 2025年度冬季企画展**「京都を学ぶ いにしへの歴史と伝承」**

冬季企画展は、例年「京都を学ぶ」と題して開催しています。本年は、平安京以前の時代にスポットをあて、京都の古代にまつわる所蔵品を展示します。一千年のみやこである京都は、さまざまな出来事や文化の中心地でしたが、みやことして出発する以前のことは、ほとんど知られていないのではないのでしょうか。本展覧会では、文献史料を中心に、考古遺物、拓本、絵図などもまじえながら展覧し、みやこが置かれる前にこの地に居住した人々や平安京へと遷都される経緯、また、聖徳太子をはじめとした古代伝承などを紹介します。これらの展示品をとおして、いにしへの京都のすがたに思いを馳せていただければ幸いです。



乙訓寺出土軒平瓦片



平安宮跡出土軒丸瓦片

開催期間：2026年1月10日(土)～2月14日(土)
時 間：10:00～17:00(入館は16:30まで)
休 館：日・月曜日 ※1月19日(月)は開館
観 覧 料：無料
問い合わせ先：大谷大学博物館 TEL:075-411-8483

**2026 3/22日 オープンキャンパス開催!**

大学紹介や学部別の学び紹介、キャンパスツアーなど大谷大学のRealな学びを体験しよう!

PICK UP! 小論文型入試セミナー
小論文の書き方の基礎を知ろう!
総合型、公募、指定校等の小論文型入試を考えている高校生が対象!

詳細・事前申込みはこちらから ▶
当日参加も可能!



〒603-8143 京都市北区小山上総町 入学センター
TEL:075-411-8114 FAX: 075-411-8160
E-MAIL:nyushi-c@sec.otani.ac.jp



大学HPはこちらからご覧になれます ▶

書いて学ぶ **親鸞のことば****歎異抄**

鶴見 晃 著

「歎異抄」「師訓篇」から要となる言葉を、ペンや鉛筆でなぞりながら学べ、お一人でも、お寺の集いの場でも活用いただけるテキスト。平易な現代語訳、仏教語の注、読み解きのためのコラム付き。



B5判 / 56頁 定価：660円(税込)

当派の寺院・教会からのご注文は2割引となります。

東本願寺出版
〒600-8506 京都市下京区烏丸通七条上る
TEL:075-371-9189 FAX:075-371-9211

詳しい書籍情報・試し読みは
東本願寺出版 **検索**

念珠かけた帰命の姿尊かり
昔から良品安価で御信用いただいていた居る
東本願寺前
製造 販売
北川与三兵衛商店
〒600-人至 京都市下京区下珠数屋町通烏丸東入
電話 〇七五―三七―一―二五五六番
FAX 〇七五―三五―二―三三六六番
御法要 御披露 御祝儀 御披露 御披露 御披露
結婚披露 祝儀 祝儀 祝儀 祝儀
内仏打敷、中啓
散華 焼香
其他仏様用百貨具

弊店は真宗正式念珠を代々伝承製作の老舗

愛知県 長泉寺様
本堂屋根改修工事(チタンカナメ段付本瓦葺き)

想いを匠技でかたちにする

カナメの社寺建築

株式会社 カナメ
社寺新築・改修工事
チタン屋根 / 地震台風対策
太陽光発電など

本 社
栃木県宇都宮市平出工業団地38-52
TEL.028-663-6300
名古屋支店
TEL.0586-71-2882
岡山支店
TEL.086-245-2541

ものづくり日本人賞受賞
(経済産業大臣賞)
「チタン カナメ段付本瓦葺き」

GOOD DESIGN
カナメチタン段付本瓦葺き

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

TEL 0584-78-3363 FAX 0584-78-3353

E-mail: ogaki@higashiongan.jp

（お問い合わせ 所定用紙請求先） 〒593-0897 岐阜県大垣市伝馬町11番地
真宗大谷派大垣教務所内 大垣真宗学院事務局

2026年度 募集コース

	年間40日程度通学 土曜コース※2	夏期に30日間程度通学 夏期集中コース
修業年限	3年	4年
期 間	4月25日(土) 2月	8月17日(月) 9月13日(日)
授業時間	10:30～14:30	9:00～14:30
授業形態	各学年別授業	4年合同の授業※1
上山研修	8月29日(土)～31日(月)	
募集人数	30人程度	10人程度

※1 夏期集中コースは、1年生から4年生合同で交流を深めながら講義を受けます。各学年別の授業はありません。

※2 土曜コースの募集は3年ごとに行います。規定の定員に達しなかった場合、開講しないこともございますので、ご了承ください。

（出願資格） 高等学校卒業またはこれと同等の学力を有すると認められた者

（出願期間） 夏期集中コース 2026年3月2日(月)～4月16日(木) 16時

土曜コース 2026年3月2日(月)～4月9日(木) 16時

（出願書類） 入学願書（所定用紙・受験票（所定用紙・最終学校卒業証明書または在学証明書・本籍地記載の住民票を本学院事務局へ提出してください）（郵送可）。

（入試試験） 夏期集中コース 2026年4月18日(土) 9時

土曜コース 2026年4月18日(土) 13時

（入試内容） 小論文・面接（試験会場は大垣真宗学院）

（入試料） 夏期集中コース 入学金10万円（入学年度／年間授業料9万円／年間施設教材費9千円（大垣教区以外の方は1万8千円） 土曜コース 入学金10万円／年間授業料11万円／年間施設教材費1万2千円（大垣教区以外の方は2万4千円）

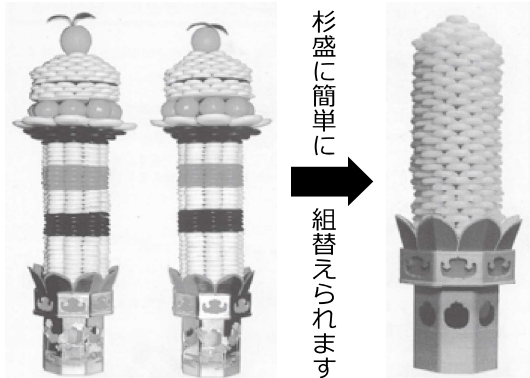
※授業に必要な書籍、教師修練・補任にかかる費用が別途かかります。

目 的

本院の教育は、大谷派教師資格取得を核として、教区内寺院を中心とした指導とともに、真の教師たる信心の行人たることを目指して行う。

大垣真宗学院生募集要項

新案 須弥盛（オリジナル商品）



新案須弥盛の特徴

「新案須弥盛」は、お華束を須弥型や杉盛に盛るための仏具です。「新案須弥盛」は芯棒を中心に食品サンプルと同じ素材で出来た餅板を重ねて出来ていますので、間にお餅を挟んだりしても違和感がありません。どこの部分までを仏具として使用されても、そのすべての使い方に対処出来るように設計されております。

杉盛に簡単に
組替えられます

「新案 須弥盛」の詳細は「京仏具犬塚ホームページ」でどうぞ



御誂えの京佛具を真心こめてつくる店

京 佛 具 犬 塚

☎300-8150 京都市下京区東洞院通上珠数屋町角

☎075-351-6553 FAX075-341-0414

御連絡はフリーダイヤル ☎0120-20-6553 でどうぞ



同朋大学

～共なるいのちを生きる～

同朋大学 別科(仏教専修)

～Special Programs of Buddhist Studies～

明けましておめでとうございます。今号では同朋大学での別科(仏教専修)の学びについて紹介したいと思います。同朋大学別科は、全日制で真宗大谷派の教師資格を取得することのできる全国で唯一の教育機関です。したがってその学びは濃密且つ充実したものとなっています。一週間の主なスケジュールは記載の時間割の通りですが、この他にも公開講座、学外研修、史跡踏査など、実践に重点を置いた実習も数多く実施しています。

その中でも、教化学(実践仏教)は同朋大学ならではの修学プログラムとなっています。たとえば、儀式作法と法話実習は、聴講者が来場する実際の講座の場で、別科生が勤行の調声をし、更に法話を行います。皆さん緊張します。だからこそ、事前準備は真剣です。そして入念に準備をするからこそ、実践の場を通して、得られる気づきが沢山あります。同朋大学では、こういった「場」を何よりも大切にしています。一年という限られた年限だからこそ、集中的に真剣に取り組める環境が重要です。ぜひ、同朋大学別科で共に真宗仏教を学んでみませんか？

2025年度 別科時間割表 [J306]

	月	火	水	木	金
10:00			勤行(声明の練習) 7階大谷派教師課程室		
2限 (10:40～12:10)	教化学演習 (A:安藤 弥 B:鶴見 晃)	仏教史 (澤崎 蓮央)	真宗学講読Ⅲ (教行信証) (鶴見 晃)	真宗史 (安藤 弥)	仏教学講義 (棚田 琢)
昼休憩					
3限 (13:00～14:30)	差別問題 (訓誦 浩)	真宗学講読Ⅰ (浄土三部経) (松山 大)	教化学講義 (市野 智行)	仏教学講読 (飯田 真宏)	真宗学講読Ⅱ (七祖教義) (黒田 浩明)
4限 (14:40～16:10)	声明作法Ⅰ (瀬尾 正寿)	真宗学演習 (A:澤崎 蓮央 B:市野 智行)		真宗学講義 (杉浦 道雄)	声明作法Ⅱ (瀬尾 正寿)

2026年度 別科選抜2期 入試要項

	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続期間
2期	2月9日(月)～3月4日(水) [消印有効] 〈窓口受付:3月5日(木) 10:00～16:00〉	2026年 3月14日(土)	3月17日(火)	一括納入 3月18日(水) 3月25日(水)

2026年度 入学者選抜試験日程

<文学部・社会福祉学部>

選抜試験	出願期間	試験日	合格発表
一般選抜 1期(A方式)	1月5日(月)～1月21日(水)[消印有効] 〈窓口受付:1月22日(木) 10:00～16:00〉	2026年 1月31日(土)	2月5日(木)
一般選抜 1期(B方式)		2026年 2月1日(日)	
大学入学共通テスト利用選抜 (前期)	1月14日(水)～2月2日(月)[消印有効] 〈窓口受付:2月3日(火) 10:00～16:00〉	大学入学共通 テストの得点 のみを利用	2月13日(金)

※上記以外の試験制度もあります。詳しくは同朋大学Webサイトをご覧ください。

同朋大学

E-MAIL: nyushi@doho.ac.jp

〒453-8540 名古屋市中村区稲葉地町 7-1

TEL: 052-411-1247

FAX: 052-411-4124

WEB: https://www.doho.ac.jp/

■文学部

仏教学科／人文学科

■社会福祉学部

社会福祉学科

心理学専攻／社会福祉専攻／子ども学専攻

■大学院

人間学研究科 仏教人間学専攻

仏教文化分野／人間福祉分野／臨床心理分野

■別科

仏教専修

教 育 部

〒600-8505 京都府京都市下京区烏丸通七条上る常葉町754番地
TEL.075-371-9193 FAX.075-371-9223

學階請求論文提出要項

- | | | |
|---|------|--|
| 1 | 提出期間 | 2026年2月2日(月)～27日(金) 各日9時～17時受付(時間厳守) ※土・日・祝を除く |
| 2 | 提出方法 | <p>①持参の場合 事前に教育部まで提出日時をご連絡のうえ、請求者本人が下記5の提出書類、下記7の異加金を併せて持参し提出してください。</p> <p>②郵送の場合 提出期間内必着にて、下記5の提出書類のみを書留郵便にて送付ください。下記7の異加金は書類確認を経て受理が決定した後、振込にて納金となります(教育部から振込先口座をご案内)。※体裁の不備により不受理の場合は料金着払いにて書類一式を返送します。</p> |
| 3 | 提出先 | 真宗大谷派宗務所 教育部(〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る常葉町754番地) |
| 4 | 提出資格 | <p>①学師講求論文 真宗大谷派教師であって大学卒業と同等以上の学力を有する者、又は進業を許可された者</p> <p>②擬講講求論文 学師授与から2年以上を終了者</p> <p>③嗣講講求論文 擬講である者</p> <p>※真宗学又は仏教学に関する刊行著述のある者は、論文による請求に準じて、当該刊行著述による嗣講請求ができます。ただし、別途、提出にかかる要件がありますので、予め時間に余裕をもって教育部にご相談ください。</p> |

- 5 提出書類
- ①学附銓衡願 1通 (2020年度より様式変更。教育部までご請求、もしくは下記URLよりダウンロードください)
- ②履歴書 1通 (2020年度より様式変更。教育部までご請求、もしくは下記URLよりダウンロードください)
- ③最終学歴卒業証明書 (学師請求論文提出者のみ)
- ④提出論文 4部 (下記6「体裁」に記載の要件を整えること)
- ※学師請求論文提出者は、口述試問時に持参するものとして、さらに1部論文の控えをご用意ください。
- 6 体裁 (体裁が整っていない場合は不受理となるので厳守のこと)

- (1) 字 数 (出典や注は字数に含めない)
- ①学術請求論文 20,000字以上50,000字以内
 - ②概請請求論文 50,000字以上100,000字以内とし、副論文の添付を妨げない。
 - ③編講請求論文 字数は無制限とし、副論文の添付を妨げない。
- (2) 用 紙
- 「真宗大谷派論文用紙」を使用、もしくは同様の体裁で作成のこと。詳細は教育部までお問い合わせ、もしくは下記 URL よりダウンロードが可能です。印刷してご使用ください。
- ・真宗大谷派論文用紙(縦書) A4・40字×20行・12ポイント・上部余白(出典等記入欄)
 - ・真宗大谷派論文用紙(横書) A4・40字×20行・12ポイント・下部余白(出典等記入欄)
 - ・手書き用原稿用紙(縦書のみ) A4・20字×10行・上部余白(出典等記入欄)
- (3) 表記・製本・引用等について
- ①製本 片面印字とし、表紙をつけて和綴じ又は洋綴じで製本する(縦書論文は縦書き表紙で右綴じ、横書論文は横書き表紙で左綴じ)。表紙の様式は下記 URL から見本を参照、もしくは教育部までお問い合わせください。
 - ②表記・引用・注釈等について
 - ・目次を必ず付すこと。・句読点などの禁則処理を行う。
 - ・引用文献は凡例と共に必ず明記する。
 - ・引用は鍵括弧(英文やサンズクリットのローマ字表記などはクォーテーションマーク)で括る、または行を改め、2字だけで記す(この際、前後に空白行を設けない)。その他の引用表記を用いる場合は凡例に示すこと。
 - ・聖教の出典は『真宗聖教全書』、『定本親鸞聖人全集』、宗派発行の『顕浄土真実教行証文類(翻刻篇)』、『宗祖親鸞聖人著作集』を基本とする。
 - ・漢文の經典及び聖典は漢文のまま引用し、返り点などがある場合は省略せずに記入する。
 - ・出典は原則、当該箇所の上余白(縦書きの場合は上部、横書きの場合は下部)に記す。ただし、余白に取まらない場合は巻末もしくは章末にまとめて表記も可とする。
 - ・注釈は、当該箇所の上余白に脚注として記す、または後注として巻末もしくは章末にまとめて記す。
 - ・論文用紙下部(手書き用紙の場合は左部記入欄)に頁番号を記入する。

- 7 学事実加金 ①学師 50,000円 ②提講 70,000円 ③副講 100,000円
納入された実加金は銓衡結果にかかわらず返金いたしません。
- 8 口述試問 学師請求論文提出者には口述試問を行います（口述試問の日時は論文提出後あらためて通知）。
- 9 銓衡結果の通知 学階銓衡会の審査を経て、2026年7月以降に書面をもって通知します。
- 10 その他 学階を授与された方は3年以内に真宗大谷派教学大会にて研究発表をお願いします。

【お問い合わせ】 教育部 TEL:075-371-9193

学階銓衡願・履歴書・論文用紙は、こちらよりダウンロードいただけます⇒

<https://www.higashihonganji.or.jp/news/notice/0006373/>

(22)

[illegible]

▼真宗本廟奉仕（25・11月）▲

〈研修部〉

真宗本廟奉仕・縁・諸研修報告

計4団体 326名	研修・会議名		担当部	人数	期間
	豊田大谷高等学校本山研修① 豊田大谷高等学校本山研修② 防守就任研修会・防守就任式 御正忌報恩講讃仰法要音楽法要研修会				
	青少年センター 組織部				
57	43	133	93	11月 4日	11月 28日
11月 20日	11月 5日	11月 5日	11月 4日	11月 5日	11月 28日

青少幼年センター

〒600-8164 京都府京都市下京区諏訪町通六条下る上柳町199番地 真宗教化センター しんらん交流館
TEL.075-354-3440 FAX.075-371-6171

第63回 大谷スカウト名誉奉仕訓練開催要項

- 1 趣 旨 親鸞聖人の教えに学び、ともに大谷スカウトとして自覚と自信を深め、仏教章取得に向けた一歩とする。
- 2 期 間 2026年3月26日(木)10時～29日(日)14時30分【3泊4日】
- 3 会 場 真宗本廟（東本願寺）同朋会館（TEL：075-371-9185）
- 4 スタッフ 団委員長：糟谷尚治（BS岡崎第3団）・隊長：清水康平（BS岡崎第3団）他
- 5 テキスト 大谷スカウト手帳 ※訓練当日までに購入し、事前に熟読の上ご参加ください。
- 6 募集人員 32名（ボーイスカウト24名・ガールスカウト8名）
- 7 参加資格
 - (1) 大谷スカウト登録団に所属する者
 - (2) 大谷スカウト個人登録者及び個人登録予定者
 - (3) 原則としてボーイスカウトは、ベンチャースカウト以上であること
 - (4) 原則としてガールスカウトは、レンジヤースカウトであること
 ※大谷スカウト登録団に所属されていない方で参加希望の方は個人登録もお願いいたします。（個人登録費：3,000円）
 ※仏教章取得済の方、過去に参加されたことのある方でもご参加いただけます
- 8 参加費 研修冥加金 15,600円 ※当日受付にてご納入ください。
- 9 帰 敬 式 礼金5,000円（20歳以下）※希望者のみ。参加費と併せて受付時にお納めください。
 ※受式を希望される方は、参加申込書と併せて帰敬式受式申請書をご提出ください。
- 10 申込方法 申込用紙に必要事項をご記入の上、最寄りの教務所までお申し込みください。
 ※用紙は、各教務所及び青少幼年センターにあります。
- 11 申込締切 2026年2月13日(金) 青少幼年センター必着
 ※定員になり次第、締め切らせていただきますのでご了承ください。
 3月26日に、しんらん交流館ロビーにて行います。
- 12 受 付 参加費・帰敬式礼金（帰敬式受式希望者のみ）・健康調査カード・健康チェック表・行動記録シート・参加許可証（申込受付後、ご本人宛に送付いたします）をご持参ください。
 後日最寄駅から京都駅までのJR片道学割普通運賃を送金します。
- 13 旅費補助 制服とする（制帽は不要）。記章類を正しくつけてください。
- 14 服 装 念珠・大谷スカウト手帳・スカウト歌集・筆記具・腕時計・健康保険証・寝間着・洗面用具（入浴用具）・雨具・常備薬・活動着（下着・Tシャツ等）・長ズボン（ジーンズまたは綿パン）・防寒具（野外用と室内用）・ハイキングショルダーまたはハバザック・ハイキングに適した運動靴・マイカップ・その他3泊4日に必要なもの
- 15 携 行 品
- 16 注意事項
 - ①新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ罹患者などの方は参加をご遠慮ください。
 - ②当研修会はパトロールシステムで実施いたします。
 - ③携行品以外で訓練に必要なものは、お預かりいたします。（携帯電話、パソコン、お菓子など）
 - ④アレルギーのある方は申込書（別紙）の備考欄に記入ください。
 - ⑤ボーイスカウト・ガールスカウト合同での訓練となりますのでご承知おきください。
 また、やむを得ず遅刻・早退される場合は下記までお電話ください。
 - ⑥近年、携行品の忘れ物や服装の乱れが目立ちますので留意の上ご参加ください。

【お問い合わせ】 〒600-8164 京都市下京区諏訪町通六条下る上柳町199 しんらん交流館内
 青少幼年センター TEL:075-354-3440(直通)
 E-mail:oyc@higashihonganji.or.jp

《帰敬式について》

仏教章の取得にあたり、日程中にぜひ帰敬式（おかみそり）を受けましょう。住職選定法名と本山選定法名のいずれかにより受けることができます。

受式を希望される方は、参加申込書と併せて帰敬式受式申請書をご提出ください。

(20)

2025年度「真宗 女性僧侶の集い」開催要項

～話そう、つながろう、私たちの広場で～

「真宗 女性僧侶の集い」は、広く法務にたずさわるすべての女性僧侶に呼びかけ、横のつながりを作り、お互いの声を聞き合いながら、宗門がどのようなかたちであつたらいいかを考えていきます。
 住職に限らず、法務にたずさわっている女性どうして、己の力を抜いてゆっくりと語り合い、お寺でありのままの自分を生きることができるよう、有意義な場となることを願って開催いたします。

- 1 日 時 2026年3月3日(火) 13時30分～17時
- 2 開催方法 Zoom
- 3 参加費 無料
- 4 対象者 女性住職・代務者、法務にたずさわる女性
- 5 定 員 30名
- 6 日 程

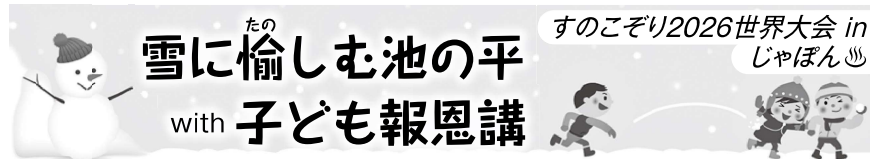
13:00	Zoom接続開始
13:30	開 会 式
13:45	趣旨説明（女性室）
14:00	語り合い（班別座談）
※参加者の興味関心のある内容を聞き取ったうえで、班分けをさせていただきます。以下の項目のうち、興味関心のあるものすべてにチェックしてください。	
①儀式声明 ②教学教化 ③継承問題 ④子育て・介護 ⑤家族との関係 ⑥門徒との関係 ⑦坊守について ⑧組会・坊守会 ⑨教区との関わり ⑩お寺での取り組み（教化の工夫） ⑪その他（自由記述）（休 憩）※各班15:20終了予定	
15:40	全 体 会
16:20	閉 会 式
16:30	終 了

※日程中、適宜休憩をとります。また日程を変更する場合がありますので、ご了承ください。
- 7 申込方法 右記申込フォームをご使用ください。フォームを使用できない方は、別途メールまたはお電話にて解放運動推進本部女性室までご相談ください。※申込後に申込完了メールをお送りいたします。メールが届かない場合は、恐れ入りますが下記の連絡先までご連絡くださいますようお願いいたします。
- 8 申込締切 2026年2月5日(木) 必着
- 9 そ の 他
 - ①Zoomの使用にあたっては、インターネット環境が必要です。有線・Wi-Fiのご利用をお薦めします。
 - ②当日のZoomのURL等については、お申し込み後こちらからご案内させていただきます。また、女性室からのメールは担当者の個人メール（パソコン）から送信します。迷惑メール対策等で、パソコンからのメール受信を制限している方は、設定の変更をお願いします。
- 10 お問い合わせ 解放運動推進本部 女性室
 TEL:075-371-9247 / FAX:075-371-6171 / E-mail:kaiho@higashihonganji.or.jp



申込フォーム

(21)



みなさん、池の平で雪を愉しませませんか？ 雪は私たちに苦しみばかりでなく、愉しみも与えてくれます。今年もスタッフの手作りによる「すのこぞり」を使つての競技大会と「子ども報恩講」をお勧めします。

ご家族または、子どもたちだけの参加も受付します。勇気を出して妙高の大自然の中へ、さあ、いっしょに出かけましょう！！

- 1 期 間 2026年2月28日(土)～3月1日(日)
- 2 会 場 池の平青少年センター
- 3 対 象 子ども(家族での参加もOK。アルペンスキーができない子どもや幼児には、オプションとして雪を使った遊びをたくさん用意しています)
- 4 参 加 費 大人7,000円、子ども(高校生まで)5,000円、幼児(未就学児)3,000円、日帰り3,000円(大人・子ども同額)
※参加費には1泊2日分の宿泊・食事・保険代を含みます。1日のリフト代・貸スキー代等は別途必要となります。
- 5 募集人員 先着20名
- 6 申込締切 2026年2月16日(月)※定員になり次第、締め切ります。
- 7 持 ち 物 念珠、防寒具、雨具、長ぐつ、スキーセット(アルペン)、保険証、パジャマ、洗面具、体温計、マスクなど感染症対策に必要と思われるもの



報恩講のおつとめ

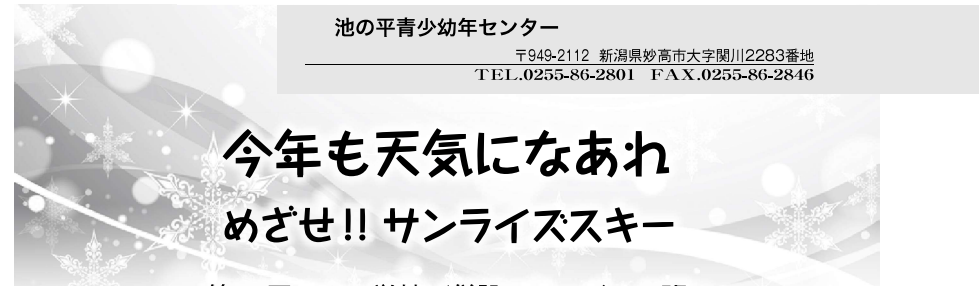
時間	2月28日(土)	3月1日(日)
6:00		起床・洗面・清掃 お朝事・朝食
9:00	(当日会場に集合ください)	
11:00	受付	アルペンスキー
12:00	昼食(センター) 開会式 すのこぞり試乗 自家製みそ作り体験	昼食(センター) 解散(13:30)
16:30	子ども報恩講 夕食(お斎) すのこぞり(距離) 表彰式	
20:00	フィナーレ：花火大会	
21:00	入浴 就寝	



※天候により日程を変更することがあります。
※部分日程の参加も受付します。

〈主催：池の平青少年センター／協力：真宗大谷派青少年センター〉

(18)



第37回スキー学校／併設スノーボード班

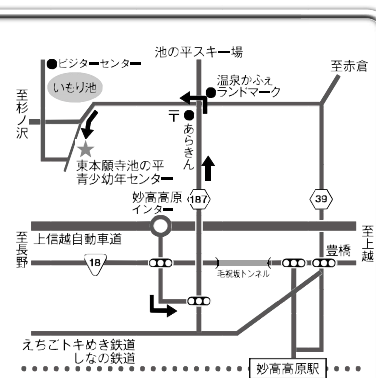
白樺林にも初雪が降り、ゲレンデがスキーヤーでにぎわう季節となりました。いよいよ今年で37回目を迎える池の平青少年センター主催の「スキー学校」を、下記の日程で開校いたします。

- 1 期 間 2026年2月3日(火)～5日(木)
- 2 会 場 池の平青少年センター
- 3 参 加 費 大人10,000円、子ども(高校生まで)9,000円
※参加費には2泊3日分の宿泊・食事・保険代を含みます。
日程中の昼食代・リフト代は別途必要となります。
- 4 募集人員 先着15名
- 5 申込締切 2026年1月26日(月)
- 6 持 ち 物 念珠、スキーまたはスノーボード用具一式、保険証、パジャマ、洗面具、体温計、マスクなど感染症対策に必要と思われるもの。



スキーを楽しむ子どもたち

※貸スキー、貸スノーボード等をご利用の方は、身長・靴のサイズをお申し出ください(有料)。



時間	3日(火)	4日(水)	5日(木)
6:30		起床・お朝事・朝食	
8:00			クラス別スキー教室
13:00	(当日会場に集合) 受付 開会式 オリエンテーション スキー学校開始	クラス別スキー教室 昼食	閉会式(会場にて)
17:00	夕事勤行・夕食	夕事勤行・夕食	
19:00	ビデオ学習 自由時間	ビデオ学習 自由時間	
21:00	入浴・就寝	入浴・就寝	

※都合により日程を変更することがあります。

〈主催：池の平青少年センター〉

(19)

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃継続事業

若者教化立ち上げ応援プロジェクト 募集要項



**若者と出会い、教えに聞く場を共にひらきたい！
そんなあなたの思いをかたちにする応援プロジェクトです。**

一人の若者を誘って共に聞法の座につく

「若い人にもお参りしてほしい」、「お寺で青年会を立ち上げたい」、「同世代の若者と教えを聞いていきたい。だけど、どうしたらいいんだろう？」

若者と精進料理を作って仏教を語り合う場や、若者をさそい講師のお話を聞いての座談会、子育て世代の方を対象とした集いや、ウェブ会議システムを利用して若者と教えを聞く場がこのプロジェクトで立ち上がっています。ぜひ青少幼年センターまでご連絡ください。

あなたと若者との出会いの場を一緒に準備していきませんか？

- 1 対 象 寺院、組、別院、有志の会（真宗大谷派僧侶・門徒によるもの）
- 2 募 集 70会所（2023年度～2025年度）※残：14会所（2025年12月現在）
※本プロジェクトは募集定数に達するまで継続して実施します。
（2026年6月に終了）
- 3 内 容 ①必要に応じて、寺院活性化支援員が事前相談に伺い、状況に合わせた方法を共に考えます。（事前相談に係る寺院活性化支援員派遣費用は、下記経費とは別途企画調整局にて負担します）
②事業の講師・スタッフ等の経費を補助します。
（1会所 上限55,000円）
- 4 応募方法 青少幼年センターへご連絡ください。

青少幼年センター

〒600-8164 京都市下京区諏訪町通六条下る上柳町199
しんらん交流館内
TEL 075-354-3440 FAX 075-371-6171
メール oyc@higashihonganji.or.jp

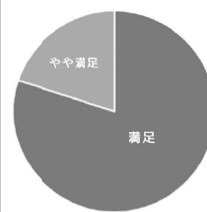


第3回「真宗トーク」アプリで対話カフェ

参加費
無 料

～問いからはじまるコミュニケーション～参加者募集！

真宗トークアプリの
体験について満足度を
教えてください



（2024年度参加者アンケートより）

「真宗トーク」アプリで対話カフェは、テーマをもとに短い対話を重ねるユニークなコミュニケーション体験です。画面に示されたお題に沿って、それぞれの考えを1分間で語り、それに対して他の参加者がカードを使って感想を共有します。多様な視点から心を開き、対話の大切さを再認識してみませんか？

この体験では、カード形式で行っていた「真宗トーク」をウェブアプリ化し、オンラインで対話を楽しみながら、「聞き合う場づくり」を体験します。お寺の行事や同朋の会などで、対話のきっかけづくりとしても活用されることを願いとしています。ぜひ、お気軽にお申し込みください。

1 日 時 ①2026年2月17日(火) 16時～18時

②2026年3月5日(木) 16時～18時

2 会 場 オンライン (Zoom)

3 対 象 真宗大谷派に属する寺院の僧侶・寺族・門徒

※スマートフォンが使える、それ以外のPC等でZoomに参加できる方

4 内 容 「真宗トーク」(アプリ版)を使ったオンラインの対話コミュニケーション体験会

5 定 員 各回12名 (先着順)

6 参加費 無料

お申し込みフォーム
はこちら→



【前回の参加者からはこんな声がありました！】



話す、聞く、場の信頼というお寺に求められていることが体感できた。



スマホ操作に不慣れで不安もあったが、比較的使いやすかった。



対話をとおして自分の思いを言葉にし、一人一人から感想を頂戴する仕組みは面白かった。



「真宗」トークアプリの
詳細はこちら→



※参加者には特典として、カード版の
「真宗トーク」を1部贈呈します。

【お問い合わせ】

真宗教化センター寺院活性化支援室（寺院運営活性化支援担当）

E-mail : kyokacenter_shienshitsu@higashihonganji.or.jp TEL : 075-371-9208

真宗本廟奉仕のご案内

「同朋会館」は、全国から集う方々が寝食を共にし、親鸞聖人の教えを聞き、真宗門徒の生活を習う聞法の道場です。ご門徒・お友達を誘って、真宗本廟奉仕にご参加ください。

お申し込みは上山希望日の40日前までに行ってください。

テーマのある奉仕団のお申し込みはこちら…



テーマのある真宗本廟奉仕のご案内

◆真宗本廟おみがき奉仕団 申込締切：2026年1月22日(木)

【2泊】3月2日(月)～3月4日(水)／【1泊】3月2日(月)～3月3日(火)

春の法要を迎えるにあたって、真宗本廟内の仏具のおみがきを両堂の縁で行います。

◆真宗本廟春の法要奉仕団 申込締切：2026年2月21日(土)

【2泊】4月1日(水)～4月3日(金)／【1泊】4月1日(水)～4月2日(木)

宗祖親鸞聖人の御誕生を縁とした親鸞聖人御誕生会（音楽法要）や全戦没者追弔法会等の「春の法要参拝」を中心とした奉仕団です。

【参加費】〈2泊3日〉18,000円、米2kg（1升4合）または米代1,300円
〈1泊2日〉13,000円、米1.2kg（8合）または米代800円
※上記は大人（15歳以上）の場合です。

●真宗本廟奉仕施設の利用について…



●「縁」一納骨・帰敬式同朋会館宿泊プラン…
納骨・帰敬式でのご参拝の際、同朋会館にご宿泊いただけます。



【研修部(同朋会館) TEL：075-371-9185]

現在受付中の募集・開催要項等

詳細は本誌もしくは宗派公式ウェブサイトをご覧ください。

◆第14回世界同朋大会のご案内（本誌10月号39頁）

申込期間：2025年9月1日(月)～2026年3月31日(火)

組織部（国際室）【TEL：075-371-9187／E-mail：kokusai@higashihonganji.or.jp】



組織部（国際室）

〒600-8505 京都府京都市下京区烏丸通七条上る常葉町754番地
TEL.075-371-9187 FAX.075-371-9194

南米開教区 開教使募集要項

真宗大谷派では、広く海外に教法を宣布し、人材を養成し、教化の拠点を開くため開教区を設けています。その中で、各開教区の現場において、現地の事情に適応し、宗祖親鸞聖人の立教開宗の精神に基づき、自信教人信の実践により同朋社会を顕現するため活動していただける方を「開教使」として派遣しています。

- 1 募集教区 南米開教区
- 2 募集人数 若干名
- 3 応募資格 ①ポルトガル語またはスペイン語のできる者、または習得意欲があり、現地での教化伝道に、特に熱意を有する者
②大谷派教師資格を有する者（査証取得条件）
- 4 応募必要書類 ①履歴書（下記QRコードよりダウンロードしてください。）
②応募動機（1,200字程度）
③最終学校卒業証明書または卒業見込証明書
④最終学校成績証明書
⑤写真（上半身・3ヵ月以内撮影のものを履歴書に貼付のこと）
- 5 応募方法 上記必要書類を揃え、組織部（国際室）へ提出してください。
- 6 応募期限 随時募集（派遣者が定員に達した時点で募集を終了いたします）
- 7 選考会 一次試験：WEB適性検査
二次試験：筆記及び面接（会場：真宗大谷派宗務所）
※選考会日時及び試験詳細は応募書類受理後、個別に通知します。
- 8 その他 ①派遣先の入国申請に係る査証発行には1～2ヵ月間を要します（査証発行費は宗派負担）。
②査証発行手続き中、研修に参加いただきます（研修期間中の手当並びに渡航費・手続費・支度金を支給）。
③研修後、開教使としての任命前に一定期間開教使補として試用期間があります。勤務状況により、開教使の任命を行わない場合があります。
④開教活動に資するための教化手当を支給します（年1回）。

〈海外開教区及び開教使の活動については、下記宗派ウェブサイトよりご覧ください〉

【お問い合わせ】組織部（国際室）

〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る 真宗大谷派宗務所内
TEL:075-371-9187 MAIL:kokusai@higashihonganji.or.jp



大谷祖廟(親鸞聖人御廟所)のご案内

大谷祖廟は親鸞聖人の御廟所であり、聖人をはじめ、本願寺の歴代、全国各地の寺院・ご門徒の方々のご遺骨が納められています。

開門：5時 閉門：17時

納骨・永代経・読経受付時間 8時45分～11時30分／12時45分～15時30分

※11時30分～12時45分までは受付を休止しています。

永代経法要 毎日14時30分～15時 定例法話 毎月13日・28日(8/13、9/28、11/28、12/28は休止)
永代経法要後

のう こつ えい たい きょう
納骨・永代経



※外装を除く、高さ15cm・直径9cm(3寸壺以下)を超える容器であり、1種から4種で納骨のお申込みをされる場合は、納骨体数毎に志納額に20,000円を加算してご志納いただきます。

※改葬(墓じまい等)の場合は容器の大小問わず、志納額に20,000円を加算してご志納いただきます。

※納骨された遺骨はお返しすることができません。

種別	志納額	読経	お取り扱い
別座1等	1,000,000円以上	別座読経	納骨当日、抹茶接待 毎月の命日・春秋彼岸会・盂蘭盆会に永代読経 祥月命日・春秋彼岸会に30年間案内状送付
別座2等	500,000円以上		納骨当日、抹茶接待 毎月の命日・春秋彼岸会に永代読経 祥月命日・春秋彼岸会に20年間案内状送付
別座3等	300,000円以上		納骨当日、抹茶接待 毎月の命日・春秋彼岸会に永代読経 祥月命日・春秋彼岸会に10年間案内状送付
別座4等	150,000円以上		毎月の命日に永代読経 祥月命日に10年間案内状送付

種別	志納額	志納額 【容器大／改葬】	読経	お取り扱い
1種	100,000円以上	120,000円以上	一座読経	毎月の命日に永代読経。祥月命日に10年間案内状送付
2種	70,000円以上	90,000円以上		祥月命日と彼岸会(春または秋)に永代読経
3種	40,000円以上	60,000円以上		彼岸会(春または秋)に永代読経
4種	20,000円以上	40,000円以上		永代経のお取り扱いはありません

かいそうのうこつ し 改葬納骨志

「墓じまい」等に伴って、改葬されたご遺骨を受付する際に、「法名」・「俗名」・「命日」等の情報が一切不明の場合、改葬納骨志20万円以上のご志納により受付させていただきます。

詳細内容を確認させていただくため、改葬納骨志を希望される場合は、事前に大谷祖廟事務所までお問い合わせください。

ど きょう
読経

(お経のみのお扱いです)



種別	志納額	場所	読経の扱い
賀慶殿別座読経	70,000円以上	賀慶殿	別座読経
茶所別座読経	50,000円以上	茶所仏間	別座読経
本堂読経	7,000円以上	本堂	一座読経
茶所読経	5,000円以上	茶所仏間	一座読経
御廟読経	5,000円以上	御廟	一座読経
総経	1,000円以上	御廟	夕刻に総じて読経

●団体参拝について…



●仏前結婚式について……



●施設利用について…



【大谷祖廟事務所 〒605-0071 京都市東山区円山町477
TEL：075-561-0777 FAX：075-533-0780】



真宗教化センター しんらん交流館のご案内

教化情報の発信・交流の拠点として、人と人をつなぐ地域に開かれた行事を開催しています。

東本願寺日曜講演 9時30分～11時

1月18日 京都教区眞廣寺住職 竹中慈祥氏「ふたつのいのち」

1月25日 大谷大学名誉教授 門脇 健氏「最後の親鸞」の難しさ—吉本隆明の伝言—

※1月4日・11日は休会

◆月刊法誌『ともしび』(東本願寺日曜講演や親鸞聖人讃仰講演会の抄録を掲載)

2026年1月号「『真実証』の現実義」池田勇諦氏(同朋大学名誉教授)

1部165円(税込・送料別)

お申し込みは東本願寺出版(TEL：075-371-9189)まで

『ともしび』は2026年1月号より価格・判型を変更しました。詳しくは本誌10頁をご覧ください。

しんらん交流館定例法話 お勤め14時～、法話14時30分～15時30分(毎月12日・27日は10時～)

※毎週火曜日・12月26日～1月10日休会。その他都合により休会する場合があります。

1月の日程はこちら…



電話相談「東本願寺 いのちとこころの相談室」 毎週木曜日13時～17時

皆さまのお悩み・ご相談をお聞きます。 TEL：075-371-9280

東本願寺文庫・絵本コーナー 9時～16時30分 ※絵本コーナーの閲覧は17時まで

書籍・絵本の閲覧、貸し出しを行っています。

浄土真宗ドットインフォ(しんらん交流館ホームページ)のご案内

お寺のサポート情報・浄土真宗の教えにふれる情報を配信しています。



【真宗教化センター しんらん交流館 【開館時間／9時～17時 休館日／毎週火曜日】
〒600-8164 京都市下京区諏訪町通六条下る上柳町199番地
TEL：075-371-9208 メール：shinrankoryukan@higashihonganji.or.jp】

真宗本廟 参拝接待所のご案内

真宗本廟収骨・読経・帰敬式・お斎・団体参拝の受付を行っています。【開所時間／9時～16時】
【真宗本廟開門・閉門時間／3月～10月：5時50分～17時30分、11月～2月：6時20分～16時30分】

各種お申し込み受付時間・お取り扱いの予定は本誌48頁～49頁



真宗本廟収骨



法義相続・本廟護持を願いとする相続講金を12万円以上お納めいただきますと、その御扱いとして、御影堂の宗祖親鸞聖人御真影のもとに、ご遺骨をお収めさせていただきます。

- 事前の手続き**
- ①相続講金をお手次ぎ(所属)の寺院・教会をとおしてお納めいただき、所定の手続きの上、「真宗本廟収骨證」の発行を受けてください。参拝接待所では、「収骨證」発行の手続きをしておりません。必ず事前手続きを行ってください。
 - ②「収骨證」発行の際に配布される参拝案内冊子『参拝される皆さまへ』(真宗本廟収骨・読経取り扱い表付)を参照の上、参拝される3週間前までに宗派公式ウェブサイトから届出いただくか、事前届出ハガキに参拝予定日・参拝人数等をご記入いただき、参拝接待所までご送付ください。
- ※「収骨證」1枚につき、1体のお収めとなります。
- 当日の受付**
- ①ご遺骨に「収骨證」を添えて、受付時間内に参拝接待所にて手続きください。
 - ②ご遺骨は参拝接待所にて7cm角の桐箱にお移し替えいたします。お収めしたご遺骨はお返しできません。また桐箱の容量を超えるご遺骨はお返しすることになります。

《お斎付真宗本廟収骨について》

※相続講金を1体につき30万円以上お納めいただきますと、規定人数分(3名)のお斎の接待があります(要事前申込)。
詳細は教務所または参拝接待所までお問い合わせください。

本山読経



本山永代経 御影堂にて永代経の御紐解(初めての読経)を行い、『法名記』に登載します。
以後、春・秋彼岸会中にお勤めする「永代経総経」にご案内いたします。

御影堂読経 御影堂にて一座読経いたします。
受付時に法名紙をお渡しし、代表者に法名を清書いただきます。法名紙は読経の際(焼香時)に広蓋に納めていただきます。

仏間読経 参拝接待所仏間に一座読経いたします。参拝接待所受付に当日お申込みください。

※都合により読経場所を変更する場合があります。

種別	読経志	読経扱	お斎接待
本山永代経	別座特等	1,000,000円以上	完全別座
	別座一等	500,000円以上	別座
	別座二等	300,000円以上	別座
	別座三等	200,000円以上	別座
	四等	100,000円以上	一般
	五等	50,000円以上	一般
御影堂読経	30,000円以上	一般	なし
仏間読経	10,000円以上	随時	なし

《本山永代経・御影堂読経の事前の手続き》

- ①読経志をお手次(所属)の寺院・教会をとおしてお納めいただき、所定の手続きの上、「永代経御紐解證」・「御影堂読経参詣證」の発行を受けてください。
 - ②「永代経御紐解證」・「御影堂読経参詣證」発行の際に配布される参拝案内冊子『参拝される皆さまへ』(真宗本廟収骨・読経取り扱い表付)を参照の上、参拝される3週間前までに宗派公式ホームページから届出いただくか、事前届出ハガキに参拝予定日・参拝人数等をご記入いただき、参拝接待所までご送付ください。
- ※本山永代経四等、本山永代経五等、御影堂読経は当日申込できます。

《本山永代経・御影堂読経の当日の受付》

- 「永代経御紐解證」または「御影堂読経参詣證」を必ず持参の上、受付時間内に参拝接待所にて手続きください。
- 《完全別座読経について》 読経志100万円以上お納めいただきますと、親族のみでの別座にて読経の上、希望数のお斎の接待があります(要事前申込)。
- 《別座読経について》 読経志を20万円以上お納めいただきますと、別座(同日に他に別座の申込がある場合はご一緒の案内)にて読経の上、上記のとおりお斎の接待があります(要事前申込)。
- ※完全別座、別座の受付は10時までとなります。当日は10時までに受付をお済ませください。

帰敬式



帰敬式は、仏・法・僧の三宝に帰依し、仏弟子となる大切な儀式です。
真宗本廟では、基本的に毎日、午前と午後には執行しています。

当日の受付 参拝接待所にて9時から受付をいたします。
お礼金 お一人10,000円(20歳以下5,000円)

- お斎について……………
精進料理のお膳を書院でお召し上がりいただけます。
- 真宗本廟団体参拝について……………
諸殿拝観や清掃奉仕等を通して、真宗の教えにふれていただくことを願っています。



晨朝法話・真宗本廟法話

晨朝【阿弥陀堂及び御影堂】毎日7時～ 晨朝法話【御影堂】毎日7時30分頃～
真宗本廟法話【視聴覚ホール・御影堂・参拝接待所仏間】
通常：10時10分～／13時10分～ 連夜日(12日・27日)：13時10分～
御命日(28日)：9時30分～ 法要・法話のご案内…

参拝接待所ギャラリー 9時～16時 入場無料

「修正会展」12月27日(土)～1月15日(木) 「親鸞聖人のご生涯」(常設展)

涉成園(枳殻邸)

開園時間 〈3月～10月〉9時～17時(受付は16時30分まで)
〈11月～2月〉9時～16時(受付は15時30分まで)

庭園維持寄付金 一人700円以上(高校生・中学生300円以上、小学生以下無料)

【本廟部・参拝接待所 TEL：075-371-9210】



涉成園

2026年2月

真宗本廟—収骨・読経・帰敬式—受付時間表

※帰敬式について、住職選定法名での受式をご希望の場合は、受式の1ヵ月前までに参拝接待所までお申し込みください。

		収骨・読経		帰敬式		法話		備 考
		午前	午後	午前	午後	10:10	13:10	
日	曜	10:10まで	13:10まで	10:10まで	13:10まで	10:10	13:10	
1	日	●	●	●	×	●	●	實如上人御祥月命日速夜
2	月	●	●	●	●	●	●	
3	火	●	●	●	●	●	●	
4	水	●	●	●	●	●	●	
5	木	×	×	×	×	×	●	彰如上人御祥月命日速夜
6	金	●	●	●	●	●	●	
7	土	●	●	●	×	●	●	現如上人御祥月命日速夜
8	日	●	●	●	●	●	●	
9	月	●	●	●	●	●	●	
10	火	●	●	●	●	●	●	
11	水	●	●	●	●	●	●	
12	木	×	● (14:10)	×	● (14:10)	×	●	午前御莊嚴 先門首御命日速夜
13	金	●	●	●	●	●	●	
14	土	●	●	●	×	●	●	歌徳院殿御命日速夜
15	日	●	●	●	●	●	●	
16	月	●	●	●	●	●	●	
17	火	●	●	●	●	●	●	
18	水	●	●	●	●	●	●	
19	木	●	●	●	●	●	●	
20	金	●	●	●	●	●	●	
21	土	×	×	×	×	×	●	午前御莊嚴 乘如上人御祥月命日速夜 聖徳太子御祥月命日速夜
22	日	×	×	×	×	×	×	聖徳太子御祥月命日中 御莊嚴払い
23	月	●	●	●	●	●	●	
24	火	●	● (14:10)	×	● (14:10)	●	●	善如上人御祥月命日速夜(引上)兼 蓮如上人御命日速夜
25	水	●	●	●	●	●	●	
26	木	●	●	●	●	●	●	
27	金	×	● (14:10)	×	● (14:10)	×	●	午前御莊嚴 宗祖聖人御命日速夜
28	土	●	×	●	×	9:30	×	宗祖聖人御命日中 住職任命式

2026年3月

真宗本廟—収骨・読経・帰敬式—受付時間表

×—お取扱なし ●—お取扱あり ※受付は9:00より開始、()—受付締切変更時間

		収骨・読経		帰敬式		法話		備 考
		午前	午後	午前	午後	10:10	13:10	
日	曜	10:10まで	13:10まで	10:10まで	13:10まで	10:10	13:10	
1	日	●	●	●	●	●	●	
2	月	×	×	×	×	●	●	
3	火	×	×	×	×	×	×	おみがき
4	水	●	●	●	●	●	●	
5	木	●	●	●	●	●	●	
6	金	×	●	×	●	×	●	得度式
7	土	●	●	●	●	●	●	
8	日	●	●	●	●	●	●	
9	月	●	●	●	●	●	●	
10	火	●	●	●	●	●	●	
11	水	●	●	●	●	●	●	
12	木	×	● (14:10)	×	● (14:10)	×	●	午前御莊嚴 先門首御命日速夜
13	金	●	●	●	●	●	●	
14	土	●	●	●	×	●	●	歌徳院殿御命日速夜
15	日	●	●	●	●	●	●	
16	月	×	×	×	×	×	×	御莊嚴
17	火	【春季彼岸会】 収骨・読経については、 お取扱いはありません (仏間読経のみお取扱 いがあります)。 ご遺骨を持参された 場合、参拝接待所にて お預かりし、24日に お収めいたします。		● (9:30)	×	9:20	●	
18	水			×	×	9:20	●	
19	木			×	×	9:20	●	
20	金			● (9:30)	×	9:20	●	
21	土	×	×	×	×	9:20	●	
22	日	●	●	● (9:30)	×	10:15	●	永代経総経
23	月	●	●	● (9:30)	×	9:20	×	午後御莊嚴払い
24	火	×	● (14:10)	×	● (14:10)	×	●	午前御莊嚴 蓮如上人御祥月命日速夜
25	水	●	×	●	×	9:30	×	蓮如上人御祥月命日中 午後御莊嚴払い
26	木	●	●	●	●	●	●	
27	金	×	● (14:10)	×	● (14:10)	×	●	午前御莊嚴 宗祖聖人御命日速夜
28	土	●	×	●	×	9:30	×	宗祖聖人御命日中
29	日	●	●	●	●	●	●	
30	月	●	●	●	●	●	●	
31	火	×	×	×	×	×	×	御莊嚴

名古屋教区 第21組 静雲寺
前住職 坂 倉 宣 雄
2025・9・13寂 (84歳)

名古屋教区 第30組 眺景寺
前住職 松 平 竜 温
2025・8・20寂 (90歳)

京都教区 山城第3組 善福寺
前住職 井 上 都
2025・10・7寂 (65歳)

坊守及び前坊守

北海道教区 南第3組 開正寺
前坊守 金 石 博 子
2025・8・23寂 (83歳)

北海道教区 第12組 玄明寺
前坊守 鍋 島 奉 子
2025・3・16寂 (97歳)

東北教区 秋田県中央組 善法寺
前坊守 寺 崎 光 子
2025・9・11寂 (91歳)

東京教区 栃木組 常敬寺
前坊守 日 野 和 子
2025・7・6寂 (96歳)

新潟教区 第21組 念佛寺
坊 守 齋 藤 美 紀
2025・2・3寂 (47歳)

新潟教区 第22組 善行寺
前坊守 色 部 唱 子
2025・9・12寂 (93歳)

能登教区 第7組 明栄寺
前坊守 寺 路 キ ク
2024・11・6寂 (93歳)

金沢教区 第8組 圓長寺
坊 守 藤 島 志津子
2025・6・3寂 (81歳)

金沢教区 第11組 龍賢寺
坊 守 廣 瀬 季
2025・8・27寂 (70歳)

京都教区 近江第26組 淨榮寺
前住職 武 田 昭 雄
2025・8・31寂 (96歳)

山陽四国教区 第4組 教福寺
前住職 鷲 野 正 紀
2025・9・26寂 (85歳)

岡崎教区 六ツ美組 淨妙寺
前坊守 天 白 寛 子
2025・9・20寂 (94歳)

岡崎教区 第21組 誓願寺
前坊守 小 林 美 子
2025・9・9寂 (96歳)

名古屋教区 第6組 龍明寺
前坊守 濱 田 豊江子
2025・9・29寂 (96歳)

京都教区 近江第4組 光照寺
坊 守 由 本 陽 子
2025・8・19寂 (86歳)

京都教区 近江第26組 即得寺
坊 守 川那邊 睦 美
2025・9・23寂 (66歳)

山陽四国教区 東讃第1組 願教寺
前坊守 千 葉 陽 子
2025・8・27寂 (82歳)

九州教区 大分別府組 運行寺
前坊守 柿 本 英 子
2025・10・6寂 (97歳)

九州教区 三潁組 金進寺
前坊守 下 川 純 子
2025・9・8寂 (95歳)

宗派関連ウェブサイト等のご案内



真宗大谷派 (東本願寺)

検索



真宗大谷派 ボランティア支援センター

検索



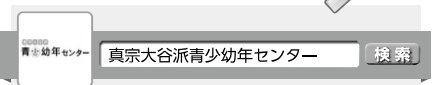
真宗教化センター しんらん交流館

検索



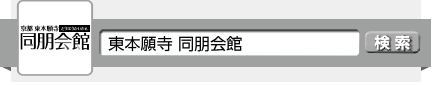
東本願寺出版

検索



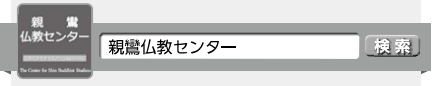
真宗大谷派青少年センター

検索



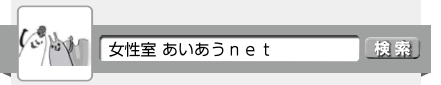
東本願寺 同朋会館

検索



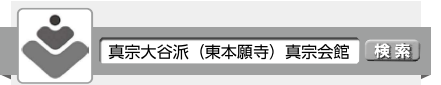
親鸞仏教センター

検索



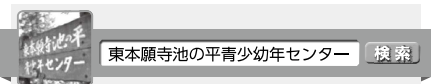
女性会 あいあうnet

検索



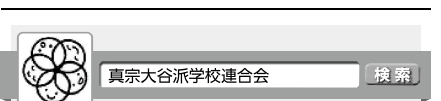
真宗大谷派 (東本願寺) 真宗会館

検索



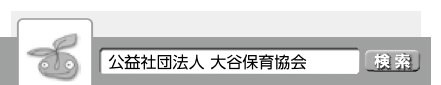
東本願寺池の平青少年センター

検索



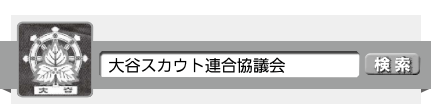
真宗大谷派学校連合会

検索



公益社団法人 大谷保育協会

検索



大谷スカウト連合協議会

検索

【SNSのご案内】

Facebook

- ・真宗大谷派 (東本願寺)
- ・しんらん交流館
- ・東本願寺 同朋会館 (真宗大谷派 研修部)
- ・真宗大谷派青少年センター ・親鸞仏教センター
- ・真宗大谷派 (東本願寺) 真宗会館
- ・真宗大谷派学校連合会



Instagram

- ・東本願寺 しんらん交流館 (shinrankoryukan_higashihonganji)
- ・東本願寺出版 (higashihonganji_bookstore)



X(Twitter)

- ・真宗大谷派 (東本願寺) (@OTANIHA_PR)
- ・真宗大谷派 災害情報 (@otaniha_saigai)
- ・東本願寺出版 (@OTANIHA_BOOKS)



宗派公式ウェブサイトで『同朋新聞』が読みいただけます。

同朋新聞

検索

安井廣正 越谷由美子 戸田直夫 植村 治 林 良照
中島正義

僧都
北 秀慧 日馬教生 桑谷 優 館 雄学 岡田寛子
藤條 周 大山 盡 井上法英

權僧都
藤谷亮一 野々山隆音 加藤心華 福芳尊法 義盛幸仁

律師
羽深一浩 中尾 哲 藤島演定

權律師
松本宏美 藤 經 崇 不破英明 加藤法子 長尾光道
中邨直純 安藤優山

法師位
北條正道 佐竹直敏 神戸大暉 吉田朋晃 石崎晃正
鷺野正紀

満位
岩倉彰里 左右田光城 黒沢祐子 藤壽隆也
加藤めぐみ 野々山照緑 林 瑛実 秋山智子
藤井良明 寺谷正行 山本國生 増山周洋 長洲悠樹
富田 朗 大江敦美 大江宏明 榛間 要 松本秀樹
木村 永 松林慧悟 武田昭雄 井上 都

入位
大野有希奈

学 階

学師
大野有希奈

得 度 (11月7日)

東北教区青森県第2組 明教寺	三明真実
東北教区秋田県南組 安乗寺	相馬 歩
東京教区埼玉組 證大寺	大畠鎌児
東京教区東京2組 宗念寺	永井靖子
新潟教区第20組 常明寺	窪すみれ
岐阜高山教区第8組 徳仁寺	田中燈意
岐阜高山教区第14組 西寶寺	野田粋依
岐阜高山教区第15組 願進寺	石神智顕
岡崎教区第33組 長教寺	渡邊了英

名古屋教区第9組 淨賢寺	友松夏子
京都教区山城第3組 真西寺	久連松良温
大阪教区第17組 勝光寺	榊原美樹
大阪教区第17組 勝光寺	榊原 光
九州教区大分別府組 頼速寺	富田満穂
九州教区久留米三井組 正蓮寺	蓮原心理
九州教区熊本西組 光顕寺	尺一未来

功 章 旌 賞

特殊大功章

菱川裕導

特殊功章

藤井勇一 佐竹直敏 山内 崇 多藝慈朗 中尾 哲
洲崎善範 中條峴山

第一功章

加藤法子 森口宏文 藤井信彰 藤 經 啓 山本昌慧
藤原了基 黄木寺亮人 長尾光道 藤澤雅史 史陀浩輝

第二功章

菊梓顕純

第四功章

北 耀徳

第五功章

菅原信章

第八功章

加藤はるか 羽深一浩

特殊大旌賞

藤原亮照 松平竜温 坂倉宣雄

特殊旌賞

佐竹直敏 山内 崇 中尾 哲 藤井信彰 藤原了基
英 貴志 近藤孝司 藤谷亮一 野々山隆音 水谷照信
内山晃佳 關根良潤

一等旌賞

加藤法子 森口宏文 藤 經 啓 山本昌慧 黄木寺亮人
長尾光道 藤澤雅史 史陀浩輝

二等旌賞

菊梓顕純

四等旌賞

北 耀徳

感 謝 状

一般財団法人太田慈光会代表理事

太田惠津子

敬 弔

ご生前のご功勞を偲び、謹んで哀悼の意を表します。
(2025年10月16日～11月15日受付まで)

住職及び前住職

北海道教区 第20組 法蘭寺
前住職 義 盛 幸 仁
2025・9・18寂(88歳)

新潟教区 中越13組 願性寺
前住職 井 上 法 英
2025・9・12寂(76歳)

金沢教区 第5組 西光寺
住 職 中 條 峴 山
2025・9・4寂(89歳)

金沢教区 第8組 圓長寺
住 職 藤 島 演 定
2025・8・22寂(88歳)

福井教区 第3組 正覺寺
前住職 林 良 照
2025・8・27寂(84歳)

大垣教区 第3組 福善寺
前住職 中 島 正 義
2025・10・14寂(89歳)

大垣教区 第15組 明圓寺
住 職 藤 原 亮 照
2025・8・13寂(86歳)

岡崎教区 第26組 廣澤寺
住 職 安 藤 優 山
2025・8・29寂(82歳)

名古屋教区 第3組 蓮乗寺
前住職 楠 勳
2025・8・25寂(87歳)

名古屋教区 第5組 以覺寺
前住職 菱 川 裕 導
2025・9・24寂(92歳)

御 香 ・ 蝋 燭

財木屋

〒602-8034 京都市上京区油小路通丸太町上ル
TEL(075)231-1063 FAX(075)231-1068

すねいる 所蔵版 大谷派声明集

大連夜勤行・満口中勤行
報恩講式敷徳文・御伝抄拝読
文類簡良四句目下
伽陀八章/漢音阿弥陀經
昭和法要式・御文拝読
正信偈和讃・大谷勤行集
出版/葬場勤行・偈文集
CD12枚セット

定価24,200円(税込) すねいる (検索)

〒600-8319 京都市下京区若宮通七条上ル竹屋町
電話 075-343-0240 FAX075-371-0871

駐車場・不動産(運用・活用)
もお任せ下さい

キョウテク 株式会社

〒600-8172 京都市下京区不明門通五条下ル
tel.075-365-8000 http://kte.ne.jp

毎月全国へ出張訪問中
まずは電話、メールなどでご連絡ください。
日程相談の上参上いたします。

寺宝 正絹金襴緞子
文化財修理修復表装

※正絹・本金の場合はお見積りください

表具幅 83cm まで 正絹 44万円 (税込)
表具幅 70cm まで 正絹 38万円 (税込)

御 絵 伝 ・ 七 高 僧 ・ 聖 徳 太 子

杉本工芸
自社工房内で一貫作業いたします

〒602-8268 京都市上京区山里町 236-1
Tel.075-417-6966
sugikake@gmail.com

見積無料

公示・告示・任免等

任 免 辞 令

四日市別院列座 小野豊徳
願により役務を免じます
(2025年7月31日)

稲垣真名 中村惟称 本谷阿人
難波別院書記に任命します
難波別院書記 梯 晋悟
同 中村惟称
難波別院列座の兼務を命じます
(以上、9月21日)

鹿児島別院列座 嶽小原法籍
鹿児島別院会計の兼務を解きます
(9月30日)

鹿児島別院列座 大鳳真証
鹿児島別院会計の兼務を命じます
期限 2028年9月30日まで
山陽四国教務所主計 大島朋昭
広島別院会計事務取扱の兼務を命じます
(以上、10月1日)

古賀堅志
長峯顕教
佐々木高
轡田普善
山田孝彦
参務に任命します

参務 長峯顕教
財務長に任命します
参務 山田孝彦

解放運動推進本部長に任命します
青少年センター長に任命します

参務 佐々木高
行政改革推進本部長に任命します
参務 轡田普善

儀式指導研究所長に任命します
首都圏教化推進本部長に任命します
(以上、10月20日)

三島多聞
高山別院輪番に任命します
任期 2027年10月22日まで
(10月23日)

帯広別院輪番 田辺 豊
願により役務を免じます
大谷祖廟事務所主事 達 顕信
財務部主事の兼務を解きます
大谷祖廟事務所嘱託 盛 英美
財務部嘱託の兼務を解きます
(以上、10月31日)

金倉泰賢
帯広別院輪番に任命します
任期 2029年10月31日まで

総務部書記 藤波龍雲
財務部書記の兼務を解きます
総務部書記 守瑠理子
財務部書記の兼務を命じます

組織部主事 番坂啓史
宗会事務局主事の兼務を命じます
出版部書記 光澤顕也
宗会事務局書記の兼務を命じます

教育部出仕 高山 崇
大谷専修学院書記の兼務を命じます
(以上、11月1日)

北畠顯諒 滑川義幸 中谷哲夫 渡辺智香
堀川秀道 金石潤導 梯 宗
宗費賦課金に関する審議会委員を委嘱します
(11月4日)

那須信純 菅原 貴 加藤晴郎 大見政弘
竹部俊恵 英 信哉 北浦康至 長澤秀豊
中西無量
別院の再編成に関する委員会委員を委嘱します
期限 2028年11月11日まで
(11月12日)

住 職 (10月28日)

北海道教区第4組 淨願寺 尾谷美香
北海道教区第16組 順正寺 中野美穂子
北海道教区第16組 勝龍寺 片岡龍一
東京教区茨城1組 來應寺 真穂天祥
新潟教区第14組 福順寺 夏井了照
富山教区第3組 段條寺 今井 賢
能登教区第3浜方組 善法寺 龜淨京介
能登教区第14組 忍性寺 藤永 悟
金沢教区第3下組 称佛寺 嶋崎真人
金沢教区第9河北組 明現寺 川原 稔
岐阜高山教区第3組 正淨寺 森 智見
大垣教区第5組 圓長寺 渡辺竜誠
大垣教区第11組 真念寺 池田幸弘
岡崎教区高岡組 西雲寺 酒井 和
岡崎教区第24組 大覺寺 大澤雄気
名古屋教区第1組 道誠寺 市野智行
名古屋教区第2組 順正寺 坂田 弦
名古屋教区第22組 安祐寺 安井はるか
京都教区近江第1組 立専寺 石川真也
山陽四国教区第4組 教福寺 鷺野倫也

山陽四国教区備後組 明正寺 藤岡哲祐
九州教区京都組 唯念寺 大久保龍樹
九州教区田川組 善龍寺 長尾良見
九州教区大分東組 安念寺 河野晃尚
九州教区福岡組 常樂寺 斧山有史

住職代務者

東北教区秋田県西組 順應寺 平 裕
東京教区東京3組 真淨寺 朝倉万作
新潟教区第7組 法泉寺 虎石 燕
富山教区第5組 願榮寺 宮尾正仁
岐阜高山教区第7組 興雲寺 河合教正
大垣教区第14組 了福寺 北村清孝
岡崎教区高岡組 萬國寺 牧野直人
岡崎教区第26組 廣澤寺 竜嶽正紀
岡崎教区第27組 立石寺 太田 哲
三重教区三重組 源長寺 坂口 愛
京都教区長浜第17組 圓樂寺 法雲俊邑
京都教区長浜第24組 本宗寺 東野義誠
京都教区敦賀組 了雲寺 岡山 巧
京都教区近江第11組 淨願寺 宮戸 弘
大阪教区第13組 本乗寺 富田弘子
山陽四国教区備後組 明眞寺 上野悦之

特命住職代務者

福井教区第1組 善林寺 延澤栄賢

教 師

権大僧正
鬼頭正信
僧正
日野大修 八木昌之
権僧正
池田正優 小川大授 洲崎善範 楠 勳
大僧都
桃井肖章 松澤成人 史陀浩輝 義盛如寿
権大僧都
江隈 智 渡辺浄道 菊樹顕純 英 貴志 竹ヶ鼻友真



伽羅・沈香・線香・匂い袋

香老舗 薰玉堂
KUNGYOKUDO

創業文禄三年(1594年) 〒600-8349 京都市下京区堀川通西本願寺門前
電話 (075) 371-0162 代
ファクシミリ (075) 343-1459

創業宝永年間 各宗大本山御用達
香老舗 松榮堂
京都市中京区烏丸通二条上ル東側
〒604-0857 電話 075 (212) 5590 (代)
www.shoyeido.co.jp

東本願寺御用達
日下念珠店
〒600-8174
京都市下京区烏丸通花屋町下ル
電話 (075) 351-6325
フリ-FAX 0120-89-6255
定休日：日曜日

御本山御用達
薫燭 わた悟 薫香
わた悟商店
〒600-8223 京都市下京区七条通西洞院西入大黒町239
TEL 京都 371-7690 FAX 京都 371-8752

価値ある よき品質の製品をつくる会社



【宗祖親鸞聖人七百五十四御遠忌記念 紅地天人之図絵手制繡御打敷謹納】

〒600-8159 京都市下京区烏丸通東本願寺前(定休日 日曜日・祝日)

■TEL 075-341-6391(代)
■TEL フリーダイヤル 0120-07-6391 ■FAX フリーダイヤル 0120-34-2816
■URL <https://shibata-houiten.com/>(Webカタログ掲載・商品動画配信)
■E-Mail shibatahoui@mub.biglobe.ne.jp

真宗大谷派 東本願寺御用達 京法衣事業協同組合加盟店

株式会社 柴田法衣店

御法要の記念品は
品質・価格・残った品物の御引取を保证する
念珠の製造専門店

福永念珠舗

創業寛政九年 京都

〒600-8174 京都市下京区東本願寺前上珠数屋町角
電話 (075)-351-2960 FAX (075)-351-0018

鳳眼菩提樹 二十玉(翡翠仕立)
店頭小売価格 11,000円(税込)
鳳眼菩提樹に、翡翠を合わせ二十玉でお仕立
表面に鳳眼の眼のような模様は浮かび上がる

桃色水晶 中玉(本絹房)
店頭小売価格 9,900円(税込)
淡い桃色が優しく可愛らしい桃色水晶を、
灰桜色本絹房でお仕立いたしました。

※掲載商品のカラー画像はオンラインショップでご覧頂けます。

数量限定

オリジナルクリアファイル プレゼントキャンペーン

期間: 11月1日(土)~1月31日(土)

「法語カレンダー 2026年版」と「今日のことは2026年版」
を同時に購入で法語カレンダー(2026年版)の挿絵を
デザインしたオリジナルクリアファイルをプレゼント!

新刊書も発売中! 詳しくは東本願寺出版オンラインショップを
ご覧ください。

【お問い合わせ】東本願寺出版
(TEL:075-371-9189 ※平日9時~16時)

東本願寺出版 検索

真宗 1月号

公示・告示・任免等 ご案内・要項

公示・告示・任免等

任免辞令	(2)
住職	(3)
住職代務者	(3)
特命住職代務者	(3)
教師	(3)
学階	(4)
得度	(4)
功章・旌賞	(4)
感謝状	(5)
敬弔	(5)

ご案内・要項

宗派関連ウェブサイト等のご案内	(7)
真宗本願取骨・読経・帰敬式受付時間表(2月~3月)	(8)
真宗本願 参拝接待所のご案内	(10)
大谷祖廟(親鸞聖人御廟所)のご案内	(12)
真宗教化センターしんらん交流館のご案内	(13)
真宗本願奉仕のご案内	(14)
現在受付中の募集・開催要項等	(14)
南米開教区 開教使募集要項	(15)
若者教化立ち上げ応援プロジェクト募集要項	(16)
第3回「真宗トーク」アプリで対話カフェ 参加者募集	(17)
雪にゆきむ池の平with子ども読経講・第37回スキー学校開催要項	(18)
第63回 大谷スカウト名誉奉仕訓練開催要項	(20)
2025年度「真宗 女性僧侶の集い」開催要項	(21)
学階請求論文提出要項	(22)
真宗本願奉仕・縁・諸研修報告【上山報告】	(23)
教区真宗学院生募集要項(大垣)	(24)

本誌に関してのご意見・ご要望をお寄せください。 〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る 東本願寺出版「真宗」誌係
FAX: (075) 371-9211 E-mail: shuppan@higashihonganji.or.jp

2026年(令和8年)1月1日発行 第1462号 1部定価: 275円(本体250円+税10%・送料別 毎月1日発行)

編集 東本願寺出版(真宗大谷派宗務所出版部)
発行所 真宗大谷派宗務所 代表者 木越 渉
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る 電話(075)371-9181 振替01000-6-27404(出版部)
印刷所 (株)京富士印刷 京都市西京区大枝南福西町3-4

お仏壇を中心とした生活・帰敬式実践運動のさらなる展開を願って！

謹賀新年 本年もよろしくお願い申し上げます。
令和8年 新春



※御本尊は本山からお受けしましょう。
（三折御本尊 小型台 なし）

《合掌の心と共に197年》



創業天保元年 伝統工芸 京仏壇・京仏具
株式会社 **若林佛具製作所**



文化財修理 社寺内装・外装工事
株式会社 **若林工芸舎**

【真宗大谷派 ご推奨品】

三折御本尊用 御厨子

価格 **¥49,500**（税込）

※上記価格に三折御本尊、仏具は含まれておりません。
※荷送料は別途でございます。
※写真はAセット（別売¥12,650 税込）仏具入りです。
※価格はいずれも税込みです。

●仕様：木製外回り内部各段扉など黒塗仕上げ
内部三方板金色仕上げ、扉には打掛金具
打ち（金メッキ）、小型三折御本尊用黒塗
台付（高さ4.5cm）

●寸法：屋根張30cm 下幅27cm 奥行18.5cm
高さ37.5cm

◆全国各教務所様、並びに弊社本支店に現物見本がございます。
◆パンフレット・資料をお送り致します。ご請求ください。

京都本店 〒600-8218 京都市下京区七条通新町東入
築地店／札幌店／仙台営業所／福岡営業所

お仏壇の事なら何でもお気軽にご相談ください。☎ 0120-37-8585

<https://www.wakabayashi.co.jp/>

若林佛具製作所オンラインショップ

<https://www.wakabayashi-jiin.com/>

荘厳仏具から内装・納骨壇まで、全国・宗派対応いたします。
お買い物にお得なクーポン配布中！



浄土は死後か？ 心の世界か？

新刊 伝道ブックス94

**私はどこへ往き
生まれるのか** 一往生浄土の仏道一

亀谷 亨 著



「浄土真宗は浄土に往生して
仏になってたずかる教えで
す」——この説明に、果た
して私たちは納得しているの
だろうか。そもそも浄土とは
何か、私にとって往生とは一
体どうなることなのか……？
浄土真宗の一丁目一番地を
問い続けてきた著者と共に考
える一冊。

新書判／80頁 定価：330円（税込）



伝道ブックス92

**仏法とは
どのような
教えか**

伊藤 元 著

新書判／120頁 定価：330円（税込）



伝道ブックス93

**仏教は
内観やでえ**

——真宗に導かれた我が人生——

名倉 幹 著

新書判／88頁 定価：330円（税込）



東本願寺出版
HIGASHI-HONGANJI PUBLISHING

TEL:075-371-9189
FAX:075-371-9211

詳しい書籍情報・試し読みは

東本願寺出版

検索

当派の寺院・教会からの
ご注文は2割引となります。